

ご利用になる前に必ずお読みください

このPDFファイルの内容についてのご質問・お問い合わせは株式会社アスキー・メディアワークスでは一切お受けできません。ご自身の責任においてご利用ください。



この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスの下でライセンスされています。この使用許諾条件を見るには、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/>をチェックするか、クリエイティブ・コモンズに郵便にてお問い合わせください。住所は：171 Second Street, Suite 300, San Francisco, California 94105, USA です。

このファイルをクリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスに基づいて利用する際には、下記クレジットを必ず作品や配布物に表示する必要があります。

クレジット：

- 文/Ubuntu Japanese Team (吉田史、あわしろいくや、村田信人、水野源、小林準)
- イラスト/タテノカズヒロ (<http://www.studio-ggy.com/>)
- デザイン/シオズミタロウ
- 初出/株式会社アスキー・メディアワークス「Ubuntu Magazine Japan vol.02」(<http://ubuntu.asciimw.jp/>) 2009年11月30日発行

Ubuntu 9.10

Japanese
Team
完全監修

インストール

完璧

ガイド

▶ INSTALL
SET UP

最新の9.10。ワクワクするのはわかるけど、いきなりパソコンにインストールする前に、この特集をチェック！自分にぴったりの導入方法を見つければ、スムーズにUbuntuを楽しめるはず！



リリースノートを読むべし!



<https://wiki.ubuntu.com/KarmicKoala/ReleaseNotes/ja>

■Japanese Teamが出すリリース案内には、必ずリリースノートや技術概要の和訳へのリンクが準備されている。きっちりアタマにたたき込んでからインストールやアップグレードを行うようにしましょう。泣きながら翻訳している、中の人との約束だ!

▶ INSTALL
SET UP

Ubuntuのお約束はインストール前にリリースノート!

リリースノートを
読んでおこう!!!

Ubuntuをインストールする前には、ひとつの「お約束」がある。それは、「リリースノート」と「技術概要」のページを読むことだ。

Ubuntu 9.10 リリースノートもくじ

①最低限必要な環境

1. ARM版 Ubuntu 9.10のリリースノート

②インストール

1. 「推奨パッケージ」も自動的にインストールされます
2. 自動でパーティションを分割した場合、ハイパーネットが使いえないかもしれません
3. ドライバをインストールする前に、パッケージリストを手動で更新する必要があります

4. Ubuntu 9.10 RCでインストールを行った際に、他のOSオプションがブートメニューに表示されません
5. デグレード状態のRAIDからの自動起動はインストール後でないと設定できません
6. Kubuntu Netbook EditionではOEM "prepare for shipping"アイコンが表示されません
7. UNRインストール時の確認ダイアログが隠れているかもしれません
8. WubiとUSBディスクのパーセント領域
9. Ubuntu Moblin Remix developer preview にはインストールアイコンがありません
10. 分離された /boot パーティションへのインストール

③アップグレード

1. モジュールオプションを使った無線帯域の地域制限の設定はサポートされなくなりました
2. Beta版からのアップグレードの場合は手動で作業をする必要があります
3. ワコムタブレットを利用している場合、X serverがクラッシュします
4. Ubuntu Netbook Remixでシャットダウンアプレットがアップグレード後に見つかりません
5. Kubuntuには必要のない電源管理パッケージがインストールされたままになっています
6. XorgのCtrl-Alt-Backspaceは標準で無効化されています
 1. Ubuntuで Ctrl-Alt-Backspace を有効にする
 2. Kubuntuで Ctrl-Alt-Backspace を有効にする
7. アップデートの通知方法が変更されました
8. MySQLのアップグレード
 1. MySQL Clusterのセットアップ
9. /etc/event.dは、もう利用されません
10. Syslogがアップグレードされました
11. Eucalyptus 1.5のスナップショットが、1.6への移行で継承されません

④その他の不具合

1. ext4に切り替える場合は手動でGRUBのアップデートが必要です
2. ext4 ファイルシステムでは巨大なファイルが破損する恐れがあります
3. Ubuntu Oneクライアントは post-install アップグレードが必要です
4. Upstartジョブはchroot環境で実行できません
5. ログインスクリーンが、ブートの関係のないファイルシステムのマウント以前に表示されます
6. Avahiは.localドメインが存在する場合は無効できません
7. EeePCに搭載された、Ralink rt2860無線LANチップをFn+F2で無効にすると、カーネルがクラッシュします
8. MSI Windネットブックに搭載された bison webcam と USB errors
9. Intel 82852/855GMビデオチップでKMSを使うと、Xvが機能しなくなります
10. MSI Windネットブックの輝度がKMS利用時に勝手に上下します
11. Kubuntu GUI/パッケージマネージャは署名されていないパッケージリポジトリからのインストールを警告しません
12. AmarokはLive CDからKubuntuを実行している場合に追加コーデックをダウンロードしません
13. Evince PDFビューアは標準と異なるホームディレクトリでは動作しません
14. UECのWebインターフェースへの初めてのアクセスが拒否されることがあります
15. UEC環境に追加の「Node」をセットアップする際、インストールが失敗することがあります
16. UECのユーザを新規作成した場合、確認メールが届きません
17. UECのゲストインスタンスでは、ユーザーデータにアクセスすることができません
18. virtio ネットワークを有効にしてUbuntu 8.04をKVMで使うと、クラッシュします
19. Ubuntu 9.10の Samba のドメインコントローラでは Windows 7のドメインメンバが認証に失敗します
20. Sambaのnmbdデーモンが起動時に開始されません
21. SPARCプロセッサはUbuntu 9.10ではサポートされません
22. 古いATIグラフィックカードで画面が崩れます

⑤日本語環境に限定される注意点

1. アップグレードにより、SCIMからibusに移行されます
 1. SCIMへの設定変更「日本語Remix」を利用しない場合
 2. SCIMへの設定変更「日本語Remix」を利用する場合
2. 9.04からのアップグレード時、ATOK X3が無効になるかもしれません
3. ISOイメージを日本語を含むパスに置くと、USBスタートアップディスクの作成に失敗します
4. カタカナを含むWindowsユーザ名ではWubiは動作しません
5. 9.04からのアップグレード時、OpenOffice.orgなどの翻訳が不要なパッケージと判断されます

※この目次は、KarmicKoala/ReleaseNotes/ja (<https://wiki.ubuntu.com/KarmicKoala/ReleaseNotes/ja>) より引用されたものです。正確な内容は引用元ウェブサイトを参照し確認してください。

この二つはパソコンを買った時についてくる「最初にお読みください」というパンフレットに相当するもので、リリースノートにはインストールの注意事項が、そして技術概要には「そのバージョンの新機能」が記載されている。左はリリースノートの目次だ。

Ubuntu Japanese Teamのサイト (<http://www.ubuntulinux.jp/New/ubuntu910-desktop-jaremix/>) にリリースノートと技術概要のリンクがあるので、これを読んでおこう。

リリースノートには「デフォルトで自動的に確保されたSWAP領域 (Windowsでいうページファイル) はメモリ全体を待避するには小さすぎるので、ハイパネーションが機能しない」なんていう重要な情報も含まれているので、インストール前に読んでおく必要がある。

があるのだ。読まずにインストールすると、インストール後にサイズを変更するのは面倒なわけで、事前に読んでおけば……なんてことになってしまふぞ。

また新規インストールだけでなく、アップグレード時の注意や、前バージョンとの操作の違いなど、機種ごとの特有の問題点・特定の操作をすれば回避できる問題などは、たいていはリリースノートに書いてある。たとえば、「Ubuntu 9.04からアップデイト・マネージャの動作が変わったので、以前の動作に戻したければこんな操作が必要」だとか、これまでと使い勝手が変わる、なんて内容も含まれている。

以前のバージョンを使いこなしていた人ほど、読まずに進めるととハマる原因になるので、必ず読むようにしよう。

「技術概要」のほうは、「新バージョンで搭載された機能」や「Ubuntuに搭載されている機能」なんかの紹介だ。搭載されているブラウザやデスクトップ環境 (GNOME)、「OpenOffice.org」のバージョンや、音楽再生・動画再生アプリ実行の様子がまとめられている。リリースノートに比べると重要度はやや落ちるが、「これまで使ったことがない基本機能」を探すのにはびつたりのページだ。こちらも必ず目を通しておくようにしましょう。

とは言え、こちらは「インストール前」に把握していかなくてもいいので、インストールやアップグレードの待ち時間に読んでもいいだろう。新しい発見があるはずだ。

リリースノートと技術概要を読んだら、アップグレードの場合も付録のCD (Desktop CD) で起動してみよう。何か問題があるなら、LiveCD環境でも問題が発生する。事前にテストしてから臨むほうが安心だし、致命的な問題があればアップグレードを延期すればいい。新規インストールの場合はもちろん付録のCDから起動することになるので、その時点で何か問題があれば気づけるはずだ。

インストール時間も短く作業もカンタンなUbuntuだが、リリースノートを事前に読んで、付録のCDでテストしておけば、厄介なハマりに遭遇する可能性をさらに減らすことができる。事前準備が大切だ!

技術概要で新機能や変更点をチェック!

アップグレード前にも付録CDで起動しよう

こんなにある! Ubuntuとその仲間たち

Ubuntu ALL LINE UP!!



01 Ubuntu Desktop Ubuntu Japanese Remix



02 Kubuntu



03 Ubuntu Netbook Remix



04 Kubuntu Netbook Remix

Ubuntuには使う人の要望に応じたたくさんのバリエーションがあり、うまく選択することで、「使いやすい」環境を手に入れることができる。

01 基本中の基本 始めるならコレ! Ubuntu Desktop Ubuntu Japanese Remix

この「Ubuntu Desktop」そのもののバリエーションが本誌の付録にもなっている「Japanese Remix (日本語 Remix CD)」で、具体的には日本語入力まわりや、日本でよく利用されるソフトのインストールが追加されている。さらにフォント設定など、日本語環境に必要なチューニングが施されている。

「他の人とは違うほうがいい」「手になじむカスタマイズがしたい」という場合、Kubuntuを使ってみるのがオススメだ。KDEベータのデスクトップ環境に、青をベースにしたデザインが印象的だ。様々な動作をカスタマイズできるのもKubuntuの大きな特徴のひとつ。さらにKDEには「Plasma」という、超先進的なデスクトップも準備されており、見た目の良さも追求できるのが特徴だ。弱点はユーザーが少なく、日本語で読める情報が見あたらないことと、日本語入力周りが弱い点などで、自信がない人は通常のUbuntuを使うほうがいい。

苦難を乗り越えてでも「手になじむ」環境が欲しい人は、Kubuntuにチャレンジしてみよう。

「すぐ使える」環境だ。「Windows Starter」がプリインストールされているネットブックでは壁紙の変更すらできないので、ネットブックをもっと自由に使いたい! なんていう人はこれを使うのがオススメ!

「他の人とは違うほうがいい」「手になじむカスタマイズがしたい」という場合、Kubuntuを使ってみるのがオススメだ。KDEベータのデスクトップ環境に、青をベースにしたデザインが印象的だ。様々な動作をカスタマイズできるのもKubuntuの大きな特徴のひとつ。さらにKDEには「Plasma」という、超先進的なデスクトップも準備されており、見た目の良さも追求できるのが特徴だ。弱点はユーザーが少なく、日本語で読める情報が見あたらないことと、日本語入力周りが弱い点などで、自信がない人は通常のUbuntuを使うほうがいい。

「他の人とは違うほうがいい」「手になじむカスタマイズがしたい」という場合、Kubuntuを使ってみるのがオススメだ。KDEベータのデスクトップ環境に、青をベースにしたデザインが印象的だ。様々な動作をカスタマイズできるのもKubuntuの大きな特徴のひとつ。さらにKDEには「Plasma」という、超先進的なデスクトップも準備されており、見た目の良さも追求できるのが特徴だ。弱点はユーザーが少なく、日本語で読める情報が見あたらないことと、日本語入力周りが弱い点などで、自信がない人は通常のUbuntuを使うほうがいい。

「他の人とは違うほうがいい」「手になじむカスタマイズがしたい」という場合、Kubuntuを使ってみるのがオススメだ。KDEベータのデスクトップ環境に、青をベースにしたデザインが印象的だ。様々な動作をカスタマイズできるのもKubuntuの大きな特徴のひとつ。さらにKDEには「Plasma」という、超先進的なデスクトップも準備されており、見た目の良さも追求できるのが特徴だ。弱点はユーザーが少なく、日本語で読める情報が見あたらないことと、日本語入力周りが弱い点などで、自信がない人は通常のUbuntuを使うほうがいい。

「他の人とは違うほうがいい」「手になじむカスタマイズがしたい」という場合、Kubuntuを使ってみるのがオススメだ。KDEベータのデスクトップ環境に、青をベースにしたデザインが印象的だ。様々な動作をカスタマイズできるのもKubuntuの大きな特徴のひとつ。さらにKDEには「Plasma」という、超先進的なデスクトップも準備されており、見た目の良さも追求できるのが特徴だ。弱点はユーザーが少なく、日本語で読める情報が見あたらないことと、日本語入力周りが弱い点などで、自信がない人は通常のUbuntuを使うほうがいい。

INSTALL SET UP

用途別に ピッタリの Ubuntuを 選ぼう!!

Ubuntuの仲間たちの基本となるのが「Ubuntu Desktop」だ。一般的に「Ubuntu」と言う場合は、この「Ubuntu Desktop」になるだろう。9・10までのオレンジ色や、9・10からの焦げ茶色のウィンドウが印象的なGNOMEによるデスクトップと、初心者でも使いやすいようにチューニングされた環境が特徴だ。Windowsに近い操作性と、「普通人」が必要とするデスクトップ向けソフトウェア(ブラウザやオフィスソフト・メールなど)がプリインストールされており、インストールした直後からWindowsの代わりとして使うのもってこいの環境だ。

「他の人とは違うほうがいい」「手になじむカスタマイズがしたい」という場合、Kubuntuを使ってみるのがオススメだ。KDEベータのデスクトップ環境に、青をベースにしたデザインが印象的だ。様々な動作をカスタマイズできるのもKubuntuの大きな特徴のひとつ。さらにKDEには「Plasma」という、超先進的なデスクトップも準備されており、見た目の良さも追求できるのが特徴だ。弱点はユーザーが少なく、日本語で読める情報が見あたらないことと、日本語入力周りが弱い点などで、自信がない人は通常のUbuntuを使うほうがいい。

02

カスタマイズで 人とは違う環境に 仕立て上げよう! Kubuntu

Ubuntu・Kubuntuには、Atomを搭載した「ネットブック」向けの専用バージョンも準備されている。それぞれ「Ubuntu Netbook Remix」と「Kubuntu Netbook Remix」と呼ばれる。これは、狭い画面でも快適に使えるように、専用のランチャや設定が追加されたものだ。表示もスッキリとわかりやすくなっているが、もちろんUbuntuの機能はフルに使えるぞ。基本的なオフィスアプリやブラウザ・メールなども入っていて、「すぐ使える」環境だ。「Windows Starter」がプリインストールされているネットブックでは壁紙の変更すらできないので、ネットブックをもっと自由に使いたい! なんていう人はこれを使うのがオススメ!

03 04

ネットブックで 使うならコレ! Ubuntu/Kubuntu Netbook Remix

古めのPCなどでUbuntuを使う場合、Xubuntuを使うのがオススメだ。XubuntuはGNOMEではなく「Xfce」という軽量なデスクトップ環境をベースにしており、Windows 2000やWindows XPが出たてのころの、数年前のハードウェアでもそこそこ快適に動作するのが特徴だ。とにかく軽いことが特徴で、設定の自由度や機能ではUbuntuやKubuntuに比べると劣るものの、サクサクした動作は魅力いっぱい。仮想化環境で使うOSとしても良い選択肢になるだろう。最新のハードウェアを使っている場合でも、超高速に動作する環境がほしければ試してみよう。公式サイトは<http://www.xubuntu.org/>だ。

05

動作が軽い! ちょっと古めのPCに オススメの Xubuntu

Ubuntu 9.10 インストール 完璧ガイド

音楽制作 (DTM) や画像・動画の編集などは、Windows環境で整えようとするとかなり高価なソフトウェアが必要だ。UbuntuのようなFLOSSベースの環境 (自由で無償なオープンソースソフトウェアの環境のこと) で編集が行えればなあ、と思う人もいるだろう。そんな人に向けた環境が「Ubuntu Studio」だ。いわゆるDAW (Desktop Audio Workstation) として、ソフトウェアシンセやシーケンサ・波形編集などの音楽向けアプリと、動画編集や2D/3Dグラフィック作成のためのアプリの両方がプリインストールされている。「PCを使ってモノを作る」ための環境だ。

特にDTMの場合、さまざまなソフトウェアが必要だし、ソフトウェアアシONSEでの演奏には応答速度も重要なので、設定のチューニングや、果てはカーネルの入れ替えなど、素の環境からセットアップするのは結構面倒な作業が必要だ。Ubuntu Studioはこうした作業を事前に済ませてくれている。また、独特なデザインの壁紙やウィンドウなど、通常のUbuntu Desktopとはひと味違う見た目も特徴だ。もちろんブラウザなどは導入されているので、普通のデスクトップとして使うことも可能だ。ただし、大量の機能が詰め込まれているため、CDではなくDVDイメージでの配布となっている。楽譜の作成 (MuseScore) や各種ソフトウェアアシONSEなど、Windowsで環境を整えようとする数千円~数十万円かかるソフトウェアが無料で利用できる。音楽制作や動画編集に興味がある人は試してみよう。

注意しておきたいのが、LiveDVD環境にはなっておらず、インストールはテキストベースで行う必要がある点だが、制作からマスタリングまで、あらゆる面倒を見てくれる。

PCを使ってテレビ録画をしている人は、「MythTV」というソフトの名前を聞いたことがあるかもしれない。MythTVというのは、「PCをHDDレコーダーにする」ためのソフトウェアで、予約録画や各種チャンネル操作・EPGベースの録画など、「PCでテレビを見る」ことを徹底的に追求したものだ。「Mythbuntu」はこのMythTVとXubuntuを融合させた、テレビ録画のためのOSだ。残念ながら今のところ地デジ関連の録画には対応していないので微妙なところだが、通常のデスクトップ環境・兼・大画面プレイヤーとして使うこともできるので、ため込んだ録画コンテンツの視聴環境として使ってみるのも一興だろう。

Ubuntuをウェブサーバやファイルサーバとして使いたい場合、「Ubuntu Server」を使うことを検討してみよう。サーバ管理者にとって「使いやすい」配慮が徹底的に行われた環境が用意されている。ただし、「サーバには余計なものが入っているべきではない」という設計思想のもと、「インストール直後はコンソールだけ」(基本的な機能はセットアップされていない)と、初心者にはちょっとだけハードな仕様だ。デスクトップ版のUbuntuをサーバとして使うこともできるので、いきなりサーバ版に手を出すのではなく、十分に慣れてからにしたほうがいい。UECなど、Ubuntuの中でも特に「アツイ」機能はこのServerの産物だ。上級者にはたまらないだろう。

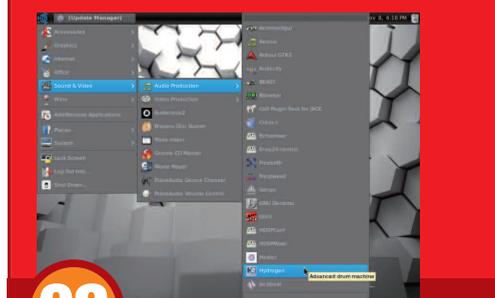
06
高品位な音楽や動画の制作環境!
Ubuntu Studio

ウエアアシONSEでの演奏には応答速度も重要なので、設定のチューニングや、果てはカーネルの入れ替えなど、素の環境からセットアップするのは結構面倒な作業が必要だ。Ubuntu Studioはこうした作業を事前に済ませてくれている。また、独特なデザインの壁紙やウィンドウなど、通常のUbuntu Desktopとはひと味違う見た目も特徴だ。もちろんブラウザなどは導入されているので、普通のデスクトップとして使うことも可能だ。ただし、大量の機能が詰め込まれているため、CDではなくDVDイメージでの配布となっている。楽譜の作成 (MuseScore) や各種ソフトウェアアシONSEなど、Windowsで環境を整えようとする数千円~数十万円かかるソフトウェアが無料で利用できる。音楽制作や動画編集に興味がある人は試してみよう。

07
テレビや動画を快適に観たい
Mythbuntu

08
サーバとして使いたい
Ubuntu Server

09
ウワサのMoblinを使ってみよう!
Ubuntu Moblin Remix



Ubuntu 9.10 インストール 完璧ガイド

▶ INSTALL SET UP

インストール前に Ubuntu の基本を CD でチェック!

インストールの前に CD で試してみよう!

Ubuntu はハードディスクにインストールしない状態で試せるようになっていた。CD から起動するだけで、インストール後と同じデスクトップ環境を体験することができ、Live CD と呼んでいる。「このマシンでうまく動くかな」とか、「どの Ubuntu を使えばいいのか?」「どのバージョンを使えばいいのか?」といった、実際に試さないとわからないことで悩む場合にオススメだ。

付録 CD を使って Live CD を試す!

Ubuntu の CD の使い方はとてもカンタン、本誌付録の CD や、自分で作った Ubuntu の CD を準備して、CD から起動するだけだ。PC の電源を入れたら CD-ROM ドライブ (DVD ドライブなんかでももちろん OK) に CD を入れて、しばらく待とう。

! **CD から起動できない! というときは?**

起動画面をよく見てみよう。起動するデバイスを切り替えるキー操作が表示されているかもしれない。使っている PC にもよるが、「F12: Select Boot Device」とか「F12: Boot Option」などの表示がある場合は、間違いない「電源投入直後、起動時に「F12」キーを押す」だ。特定のタイミングで入力しないといけないこともあるので、1秒おきぐらいに繰り返し入力しておくが確実だ。Windows が起動してしまった場合は、そのまま再起動して再チャレンジ。BIOS の設定を変更して、CD-ROM ドライブから起動するように設定を変更する必要があるかもしれない。「F2」か「Del」キーを押して、BIOS の「Boot Settings」のような設定項目で CD-ROM ドライブを一番上に変更してみよう。わからなければ、パソコンに付属してきたマニュアルなどを参照しよう。

最新 PC は [F12] キー



最新 PC では [F12] で起動デバイスを選択できるよになっているはず。まずはキーを確認しよう。

Live CD Ubuntu を起動しよう

インストール後の世界を Live CD で体験!

最初に表示されるメニューから「コンピュータを変更を加えずに Ubuntu を試してみる」を選択し、「Enter」キーを押そう。STEP 2 のような画面がしばらく表示された後で、Ubuntu のデスクトップ画面になるはずだ。

デスクトップ上には「インストール」というアイコンがある。ライブ CD 環境で試して Ubuntu が気に入ったら、このアイコンをダブルクリックすることで、そのままインストール作業に入ることも可能となっている。ちなみに、起動後も必要に応じて CD にアクセスするので、CD は入れっぱなしにする必要がある。

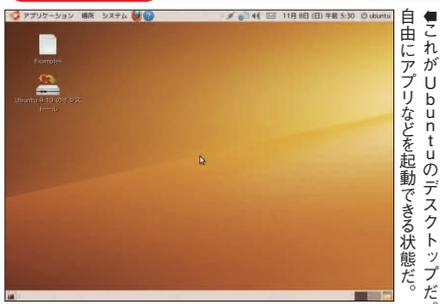
「Live CD 環境」というと、体験版みたいなやつじゃないの?と思うだろうが、Ubuntu はフル機能が利用できる。唯一の制限は、再起動するとデータがなくなることだ。これは CD なので仕方ない点だが、重要なデータを残して再起動しないように。

そのままインストールも可能



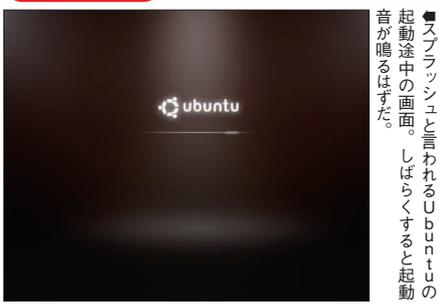
ある程度、動作環境をチェックしたら、そのままインストール作業に移れるのだ。

STEP 03 デスクトップが表示される



これが Ubuntu のデスクトップだ。自由にアプリなどを起動できる状態だ。

STEP 02 Ubuntu を起動させる



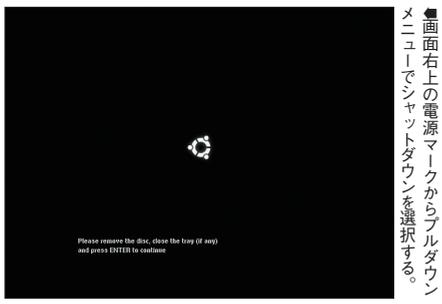
スプラッシュと言われる Ubuntu の起動途中の画面。しばらくすると起動音が鳴るはずだ。

STEP 01 CD から起動成功!



メニューの一番上、「コンピュータに変更を加えずに Ubuntu を試してみる」を選択しよう。

STEP 06 Live CD を終了する



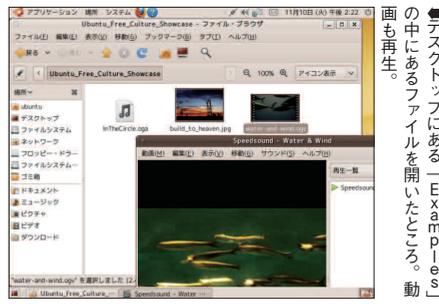
画面右上の電源マークからプルダウンメニューでシャットダウンを選択する。

STEP 05 ネットワーク接続も



画面右上のアンテナやケーブルの形のアイコンをクリックするとネットワークの接続状況が見える。ブラウザも使える。

STEP 04 いろいろ試してみよう



デスクトップにある「Examples」の中にあるファイルを開いたところ。動画も再生。

INSTALL
SET UP

Live CDの状態 ハードウェアの 動作確認を しておこう!!

デバイスが標準状態で 動くかがポイントだ

Ubuntuを含めたLinux全般では、「ほとんどのハードウェアは、OS標準でドライバが搭載されている」というのが基本だ。別途ドライバをインストールするのではなく、OS標準のドライバで利用することになるわけだ。逆に言うと、OS標準ドライバで認識されない場合、別途ドライバをインストールするには難しい設定操作が必要になる可能性がある。インストールする前に、標準でデバイスが認識されるかどうか確認することが重要だ。

そこで、Live CD環境で起動したら、まず最初に各種アプリの動作を試してみよう。これはハードウェア的に正しく動作するかどうか为目的なので、アプリの起動後、すぐに終了してもいい。起動中に止まってしまおう、などといった現象が起こらないかチェックすれば十分だ。

ネットワークに接続 できるかは必ず確認!

ただし、正常にネットワークが動作しているか確認するため、Firefoxでウェブページが表示できるかは確認しておこう。場合によっては自分でGoogleなど検索して問題を解決する必要がある。インストール後のUbuntu環境でネットワークにつながらないと大変だからだ。

BroadcomやAtherosなどの一部の無線LANチップを利用するPCは、Live CDのままではネットワークが使えないことがある。ハードウェア・ドライバを追加インストールすることで利用できるようになるので、このあたりのチップの場合は実際にハードディスクにインストールしてから試すことになるだろう。ただし、ケーブルでネットワークに接続して、十分なメモリを搭載していれば、Live CDの状態でも「システム」・「システム設定」・「ハードウェア・ドライバ」を起動して無線LANドライバが存在するか、あらかじめ確認するテストもできる。試してみてもいいだろう。

USBメモリも使える!



Live CDの状態でもUSBメモリを認識するので、作成したデータはUSBメモリへ保存できる。

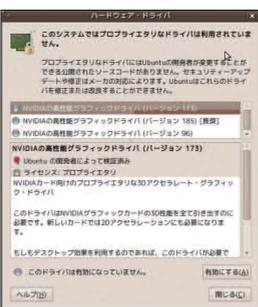
ウェブを表示できるか確認



ウェブが表示できれば、インストール後ネットワークに接続できるのは確実だ。必ずチェックしよう。

■ [ハードウェア・ドライバ] で追加インストールできるドライバがあるか確認。左はNVIDIAのドライバがインストールできるのがわかる。

ドライバを確認



ディスプレイの状態



ディスプレイの解像度を確認しておく。たいていは、グラフィックドライバを追加すると自動的に表示されるようになる。

ほかのハード・ソフト も確認しておこう

よく使う周辺機器を洗い出しておこう。これらでひとまずOK、と思うかもしれないが、まだ確認することは残っている。日常的に使っているハードやソフトがきちんと動作するかを確認する必要がある。プリンタ類はインストール後に試行錯誤をす必要があるかもしれないが、「毎日プリンタを使う」なんて人が、プリンタを使えなくなると厄介だ。あわせて、「サウンドがちゃんと再生されるか」(ログインした時点でサウンドが鳴っていれば大抵は)

インストールが 終わっても CDは捨てないで!

トラブル時にも使える レスキューCDになる

インストールが終わったらCDの役割は終了、どうせまたCD、Rに焼けばいいし、「ゴミ箱に直行、なんて思うかもしれない。が、このCD、Live環境で起動できるし、ディスクのパーティションの操作にも使える便利なヤツなのだ。また、万が一OSが起動しなくなってしまう場合も、これがあればOSの復旧作業もできるし、最悪の場合はデータだけを吸い上げる作業にも使えるのだ。

大丈夫だ、「ウィンドウを動かしてみて、おかしな残像が残らないか」「しばらく使ってもおかしな動作にならないか」をチェックしておく。

ノートPCを使っている場合、「フタを閉じてみる」「ACアダプタを抜いて、また挿してみる」という電源まわりも重要だ。これくらいの動作で止まってしまおうのだと、ちょっと困ったことになるから。

また、このタイミングでウェブ上で動作するサービスの挙動も確認しておくといいだろう。ログインできるか、画面が崩れないか、動作が遅くないか、あたりがチェックポイントだ。

ディスクユーティリティ



■HDDの動作状態や含まれるデータを確認できるツール。動作がオカシイときのチェックに便利!

パーティション・エディタ



■パーティション構成を変更したり、容量を拡大・縮小できるツールだ。

Ubuntu 9.10 インストール 完璧ガイド

PCにWindowsがインストールされていて、起動時にUbuntuと切り替えて使いたいという人には、通常のインストール方法より安全にUbuntuをインストールする方法がある。

Ubuntuデスクトップ上のインストーラを実行した場合、Windowsがインストールされたパーティションが縮小され、空いた領域にUbuntu用のパーティションが作成される。多くの場合は問題なくインストールが完了するが、パーティションの変更は面倒を起すこともある。たとえば、Ubuntuを削除して元に戻すためには、縮小したパーティションやハードディスクのマスタースレーブレコードを元に戻す作業が必要になる。また、パーティションの変更中に停電が発生したり、操作を間違ったりすれば、ハードディスク内のデータが読めなくなってしまう可能性もある。

安全にUbuntuをインストールしよう

WubiはWindowsを起動した状態でUbuntuのCDをPCにセットするだけで起動する。自動的に「Ubuntuメニュー」のダイアログが表示されない場合は、CD内にある「wubi.exe」をダブルクリックして実行しよう。

INSTALL SET UP

Wubiを使って 起動時に Windowsと 切り替えて使う!

性もある。Ubuntu日本語フォラムでもパーティション操作に関するトラブルの相談が多く投稿されている。

そこで「Wubi」と呼ばれるプログラムの出番だ。Wubiを使えば、Windowsのパーティション内に仮想ディスクを作成し、そこにUbuntuをインストールすることができる。この方法ならば、パーティションの変更が必要ないためトラブルが起りにくい。もちろん、Ubuntu専用のパーティションを作成する場合と使い勝手は同じだ。仮想ディスクの容量が30GBまでに制限され、ディスクアクセスが少し遅くなるというデメリットはあるが、多くの場合は問題にならないだろう。

Windowsのユーザー名に注意!!

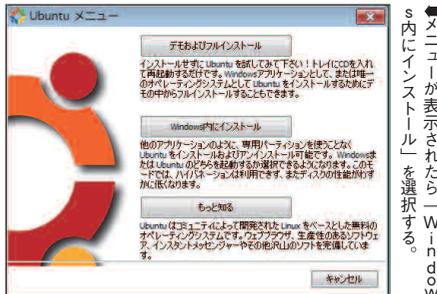
ユーザー名にカタカナが含まれる場合、Wubiが起動しない問題が確認されている。その場合はカタカナを含まないユーザーを作成して実行しよう。また、アルファベットではない場合、Ubuntuでのフルネームが「@」に設定されるバグがある。Ubuntuにログイン後、「ユーザーとグループ」を設定しなおそう。

STEP 02 Ubuntuの設定を行う

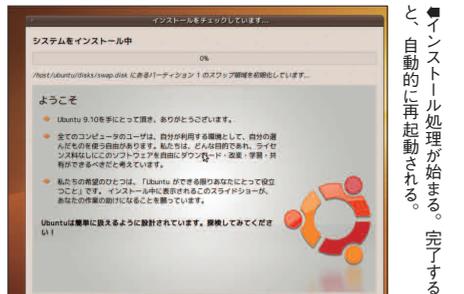
必ず設定しなければいけないのは、ユーザー名とパスワードだ。Windowsのユーザー名がアルファベットならば、最初から同じものが入力されている。そうでなければ空欄となっているので、アルファベットの小文字で入力しよう。パスワードには、英数字や記号が使える。8文字以上の文字列を設定しておこう。その他、インストールするドライブやインストールサイズ（仮想ディスクの容量）などを必要に応じて変更する。設定が終わったら、「インストール」をクリックしよう。



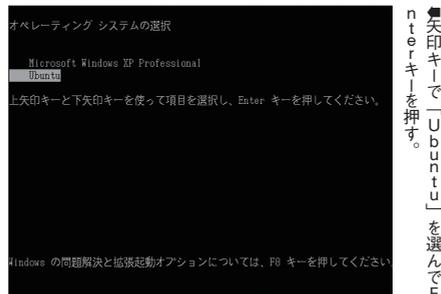
STEP 01 「Ubuntuメニュー」が起動



STEP 05 インストール処理の開始



STEP 04 起動するOSを選択する



STEP 03 インストール開始!

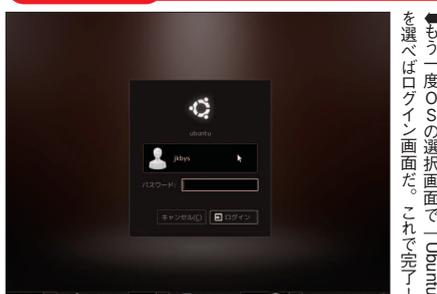


Windowsアプリと手順は同じ



Wubiを使ってUbuntuをインストールした場合、Windows上でコントロールパネルにある「プログラムの追加と削除」(XPの場合)や「プログラムのアンインストール」(Vistaの場合)を開き、「Ubuntu」を選択してアンインストールすればいい。

STEP 06 Ubuntuにログイン!



STEP 01 光学ドライブから起動



START

CDから起動できるようにしているかBIOSの設定を確認しよう。BIOS画面の表示方法はパソコンの取扱説明書を読もう。

付録CDを使って「Ubuntu 9・10」をインストールしよう。Ubuntuのインストール作業は、環境にもよるが、30分程度で終わる。Windowsなどの既存のOSを削除したくない場合は次のページの注意書きを読んだ上でSTEP 8に注意しよう。

▶ INSTALL SET UP

付録のCDを使って UbuntuをPCに インストール!!

STEP 04 さっそくインストール



一通り機能を試して、インストールの決意が固まったら、さっそくインストールしてみよう。デスクトップに表示されている「Ubuntu 9.10のインストール」をダブルクリックしよう。

STEP 03 これがUbuntuのデスクトップだ



これがデスクトップだ。インストールしなくても一通りの機能を試せるぞ。

STEP 02 これが起動メニューだ



付属CDから起動画面「コンパニオン」に変更を加えないで「Ubuntu」を使う「インストール」を選択しよう。

STEP 07 キーボードレイアウト



キーボードレイアウトはすでに「Japan」が選ばれている。画面下部の入力テスト欄を使って確認できる。

STEP 06 場所の選択



タイムゾーンを決定するために、場所を選ぶ。これもすでに「日本時間」が選択されているのでそのまま進もう。

STEP 05 言語を選ぼう



付録CDから起動した場合は、すでに「日本語」が選ばれているのでそのまま進もう。

STEP 09 ユーザ名とパスワード



ユーザ名とパスワードを決める。「ログイン時にパスワードを要求する」設定がおすすめです。

Windowsを削除しない場合

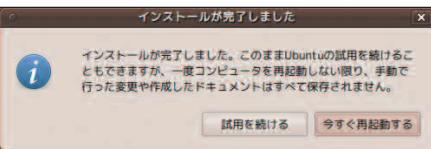
Ubuntu専用にするなら

「それぞれ別のものとしてインストールし、起動時にどれを起動するかを選択」を選ぶ。詳しくは次頁。

「ディスク全体を削除してから使用する」を選ぶ。Windowsが削除される。

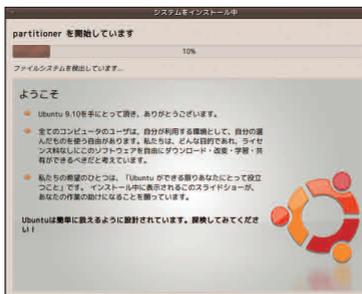
パーティションの構成を決める

STEP 12 インストール完了



お疲れさま。インストールは完了だ。このままCD起動のUbuntuを使い続けることもできるが、ファイル類が保存されないの、すぐに再起動しよう。Ubuntuライフを楽しんで!

STEP 11 スライドショー



Ubuntu 9・10からの新機能で、インストール作業中にスライドショーでUbuntuの特徴を覚えてくれるぞ。

STEP 10 最終確認

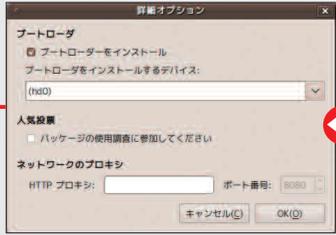


これがインストールの最終確認画面だ。確認して「インストール」をクリック。

FINISH!!

Ubuntu 9.10 インストール 完璧ガイド

ブートローダのインストール先



■最終確認画面で「拡張」をクリックしてブートローダのインストール先を設定する。

Windowsを削除しないように



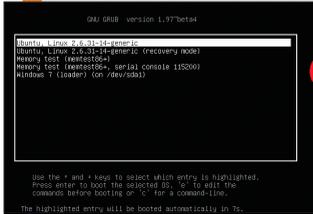
「ディスクの準備」では「それぞれ別のものとしてインストールし、起動時にどれを起動するか選択」を選ぶ。時にどれを起動するか選択

Windowsを削除したくなければ、前ページのSTEP8の「ディスクの準備」で「それぞれ別のもの」のように気をつけよう。Windowsを削除しないように、前ページのSTEP8の「ディスクの準備」で「それぞれ別のもの」のように気をつけよう。Windowsを削除しないように、前ページのSTEP8の「ディスクの準備」で「それぞれ別のもの」のように気をつけよう。

「ディスクの準備」に注意しよう!

Windowsなどの他のOSをデュアルブートにするときは

起動OSを選択できる!



■インストール後はこのような画面で起動するOSを選択できるようになる。

通常は(hd0)で問題ないが、USB外付けHDDなどをUbuntuのインストール先に指定した場合は、ブートローダのインストール先がそのドライブに変更されていることを確認しよう。

USB外付けHDDの場合



としてインストールし、起動時にどれを起動するか選択」を選ぶ。次に画面下部のスライダを左右に調整して、Ubuntu 9.10にどれだけの容量を割り当てるか決定する。USB外付けHDDなどをUbuntu専用にする場合は、ブートローダのインストール先を確認しよう。

Windowsで作成する場合

STEP 01 Windows 7ならラクチン



■Windows 7ではISOディスクイメージの書き込み機能を備えているので、ISOイメージのダウンロードを終えたら、そのファイルを右クリックしよう。「ディスクイメージの書き込み」を選択して、空のCDを入れるだけだ。

CDイメージをダウンロード

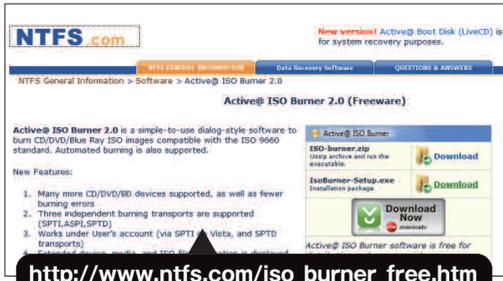


<http://www.ubuntulinux.jp/products/JA-Localized/download>

CD-ROMを自分で作成する

自分でCD-ROMを作成するには、まずISOイメージ (CDイメージ) をダウンロードしよう。日本語RemixはUbuntu Japanese Teamのサイトからダウンロードできる。

STEP 02 Active@ISO Burnerを使う方法



■Windows XPやVistaではISOイメージを焼くためにはソフトウェアが必要だ。ここでは「Active@ISO Burner」を使う方法を紹介する。左記ダウンロードページからダウンロードして、インストールしよう。

http://www.ntfs.com/iso_burner_free.htm

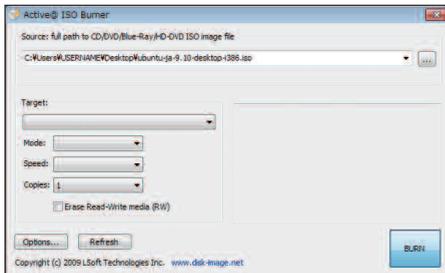
STEP 01

ダウンロードしたファイルを右クリックするだけ

■ISOイメージをダウンロードしたフォルダを開こう。そしてダウンロードしたファイルを右クリックして「書き込む」をクリックしよう。すると書き込み設定画面が表示されるぞ。

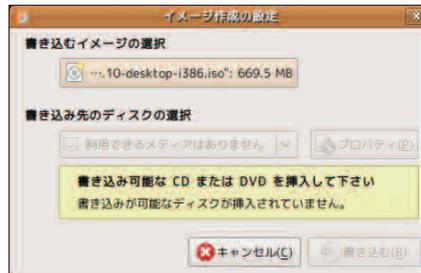


STEP 03 ISOイメージを選択して書き込む



■「Active@ISO Burner」を起動したら、画面上部で、ISOイメージが保存してある場所を指定しよう。700MBの空のCD-RやDVDを挿入したら、続いて[BURN]をクリックしよう。書き込みが始まる。

STEP 02 空のCD-Rを挿入して書き込む



■UbuntuのLiveCDを作成するには、700MBの空のCD-RまたはDVDメディアが必要だ。CDを挿入したら、「書き込む」をクリックしよう。これだけの操作で、Ubuntu入りのCDの作成が完了だ。

Ubuntu 9.10 インストール 完璧ガイド

削除方法

Portable Ubuntu Remixのアンインストールは簡単で、ダウンロードして展開した「Portable_Ubuntu_DOS」フォルダ以下を削除するだけなので、特に注意することはない。

Un install

「Restart」をクリックし、しばらく待てば、日本語のメニューが表示される。基本的な日本語化はこれで完了する。

快適に使えるように日本語化してみよう！

「Portable Ubuntu Remix」の初期言語設定は英語だ。これを日本語に変更しよう。まず、メニューから [System] - [Administration] - [Language Support] を選択する。表示されたダイアログで [Install/Remove Languages...] ボタンをクリックし、現れたダイアログで [Japanese] にチェックを入れて [Apply Changes] をクリックする。すると、パスワードの入力を促されるので「123456」と入力して [OK] をクリックしよう。必要なファイルのダウンロードとインストールが行われる。完了したら [Close] をクリックしよう。そして Language ダイアログのドロップダウンボックスで「日本語」を選択する。これで、Portable Ubuntu Remixを再起動すれば日本語のメニューに切り替わる。メニュー右端の電源ボタンを押し、現れたダイアログで「Restart」をクリックしよう。しばらく待てば、日本語のメニューが表示される。

だが、さらに Ubuntu Japanese Team のパッケージを追加することもできる。詳しくは33ページを参照してほしい。

この作業でもわかるように、Portable Ubuntu Remixにはアプリなにも追加できる。USBメモリで持ち歩けば、Windows PCでも自分好みの設定にした Ubuntu を使うことができ、利用した PC に影響を残すこともない。ただし PC に USB 接続したデバイスすべてが使えるわけではない。

インストールの前に Windows のユーザ名を確認！

「Portable Ubuntu Remix」は、Windows のユーザ名にアルファベット以外の文字が含まれていると動作しない。しかも、日本語のユーザ名をアルファベットに変更しても動くようにはならない。新しいアルファベット名のユーザを登録するか、環境変数「TEMP」を「C:\Windows\TEMP」など日本語を含まないパスに変更しよう。

9.10へのアップグレードはしないほうがいい！！

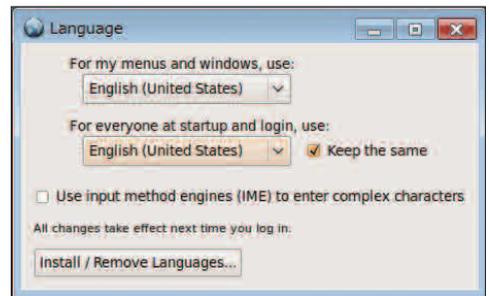
今回インストールした「Portable Ubuntu Remix」の「Version DOS」は 9.04 ベースだ。最新版である 9.10 にアップグレードしたいところだが、アップグレードすると動作しなくなるのが報告されている。次のバージョン「Version TRES」の開発も予定されているとのことなので、公開されるまで待ったほうが賢明だ。

STEP 10 日本語表示に切り替える



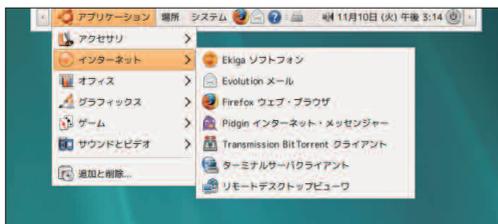
■もう一度、[Language Support] メニューを開き、ダイアログのドロップダウンボックスで「日本語」を選択する。Portable Ubuntu Remixを再起動しよう。

STEP 07 日本語化を開始しよう



■メニューから [System]-[Administration]-[Language Support] を選択する。右のようなダイアログが表示されるので「Install/Remove Languages...」ボタンをクリック。

STEP 11 メニューが日本語化された



■おなじみのメニュー表示になり、わかりやすくなった。Ubuntu Japanese Teamのパッケージを追加することもできる。

STEP 08 使用言語に日本語を選択する



■ [Japanese] にチェックを入れて [Apply Changes] をクリックする。表示されるダイアログでパスワードに「123456」と入力して [OK] をクリックしよう。

STEP 12 タイムゾーンを設定する



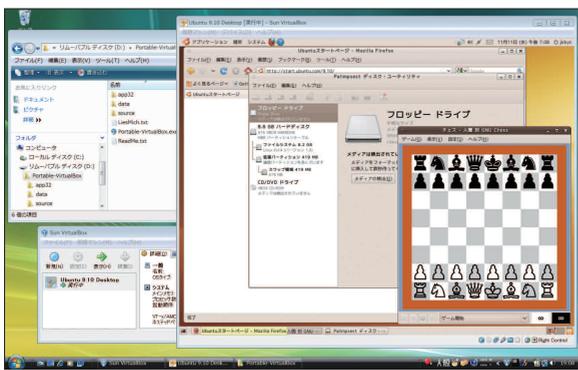
■初期状態ではタイムゾーンが未設定なので修正しよう。メニューから [システム] - [システム設定] - [時刻と日付の設定] を選択する。「ロックの解除」ボタンでパスワード「123456」を入力しよう。タイムゾーンのボタンを押すと地図が表示されるので、日本で使うなら [Asia/Tokyo] にしておこう。

STEP 09 ファイルのダウンロード



■日本語化に必要なファイルのダウンロードとインストールが行われる。完了したら [Close] をクリックしよう。

Portable-VirtualBox



本稿執筆時点で最新のバージョンは「Portable-VirtualBox_v3.0.10-Starter_v4.0.0-Win_all.exe」だ。作成するにはWindowsを利用する必要がある。

<http://www.vbox.me/>

仮想PCをUSBメモリにして持ち歩いてみる
前のページで紹介した「Portable Ubuntu Remix」でもWindowsで動作するUbuntuをUSBメモリで持ち歩くことができるが、仮想PCで動作する完全なU

ntu環境を持ち歩きたいという人も多いだろう。そこで活躍するのが、仮想化ソフト「VirtualBox」を改造した「Portable-VirtualBox」だ。このソフトを使えば、Ubuntuはもちろん、他のLinux OSやWindowsをUSBメモリで持ち歩くこともできる。通常、VirtualBoxはリムーバブルメディアにはインストールできない。そこで、USBメモリにPortable-VirtualBoxをインストールしておこう。そうすれば、Windows PCにインストールすることなく、USBから直接VirtualBoxを起動することができるようになる。なお、Portable-VirtualBoxとUbuntuをインストールした仮想ディスクを入れるUSBメモリには少なくとも4GBの空き容量が必要だ。また、作成するためにWindowsの環境が必要となる。

INSTALL SET UP

USBメモリでWindows用の仮想Ubuntuマシンをつくらう!

STEP 04 新規の仮想PCを作成しよう



■[新規] ボタンをクリックし、新しい仮想PCを作成しよう。ウィザードの途中で、オペレーティングシステムに「Linux」、バージョンに「Ubuntu」を選択すれば、平均的なPCに適切な設定が自動で選択される。設定値は後で変更することもできる。

STEP 05 Ubuntuのインストールを開始



■仮想PCができたら [CD/DVD-ROM] をクリックして [CD/DVDドライブのマウント] にチェックを入れよう。そして、本誌付録のCDをPCにセットして「起動」ボタンを押せば、Ubuntu CDでPCを起動した時と同じ状態になる。インストールは20ページを参照しよう。

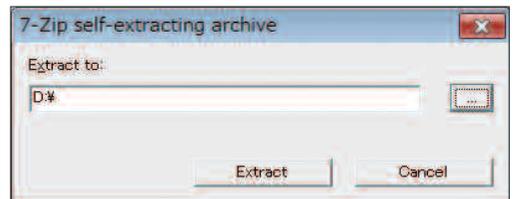
STEP 06 Guest Additionsのインストール

```
sudo apt-get update
sudo apt-get install dkms
sudo /media/cdrom/VBoxLinuxAdditions-x86.run
```

※パスワードの入力を促されたら、インストール時に設定したパスワードを入力しよう。

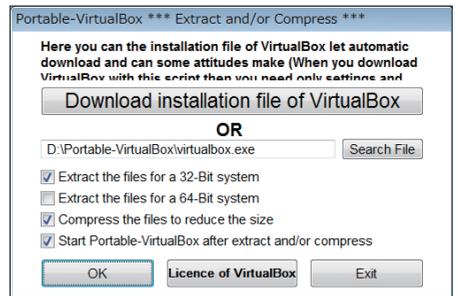
■Ubuntuをインストールしてログイン後、VirtualBoxのメニューから [デバイス] - [Guest Additionsのインストール] を選択しよう。Ubuntuで [アプリケーション] - [アクセサリ] - [端末] を開いて上のコマンドを実行すれば、インストールは完了だ。再起動後、より大きなウィンドウ表示にできる。完成したUSBメモリを他のWindows PCに差し込み、「Portable-VirtualBox.exe」を実行して起動することを確認してみよう。

STEP 01 ダウンロードファイルを展開



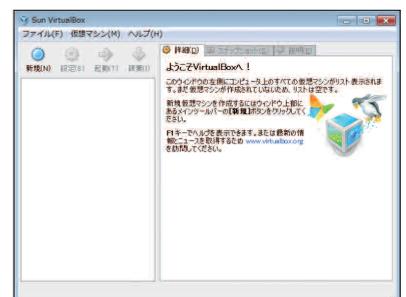
■ダウンロードしたファイルを実行し、ファイルを展開するフォルダを選択する。ここで、USBメモリのパスを設定して [Extract] をクリックしよう。USBメモリ上に「Portable-VirtualBox」という名前のフォルダが作成される。

STEP 02 インストール作業を開始



■USBメモリ内の「Portable-VirtualBox.exe」を起動し、インストール画面で「Download installation file of VirtualBox」をクリック。ダウンロードが完了したら、VirtualBoxをUSBメモリにインストールしよう。通常は右の画面のようにチェックボックスに3つのチェックを入れておけばいい。

STEP 03 VirtualBoxが起動する



■インストールが完了すると、VirtualBoxが起動する。ここからはハードディスクにインストールしたVirtualBoxと同様に作業が進められる。108ページからの解説が参考になるだろう。

Ubuntu 9.10 インストール 完璧ガイド

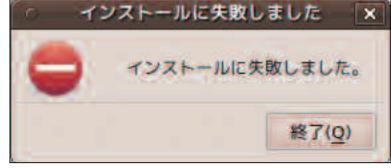
INSTALL SET UP

Live USBを作って USBメモリから Ubuntuをインストール!

ネットブックのインストールに最適

ネットブックや薄型ノートパソコンには光学ドライブが付いていない製品が多い。そのようなパソコンでは付録のCDをしようとする、外付け光学ドライブを新たに購入しなければならず、少々使い勝手が悪い。そこで、USBメモリをUbuntuのインストールディスクの代わり、Live USBにしてしまおう。USBメモリからの起動はCDに比べて速いという利点もある。Live USBとして使用するUSBメモリは、1GB以上のものがいい。また、作成時にはUSBメモリ内のデータが全て消去されるので、必要なデータが含まれている場合はバックアップを取ろう。付録のCDから起動した状態でも作成できる。ただし、古いパソコンではUSB機器からの起動に対応していないものもあるので、その場合は付録CDを使用しよう。

LiveUSB作成時の注意



ISOイメージの保存場所のパスに英字以外の文字が含まれていると作成に失敗するので、「ホーム・フォルダ」か、ホームフォルダ内に英字のみのフォルダを作成してその中にISOイメージを保存しよう。

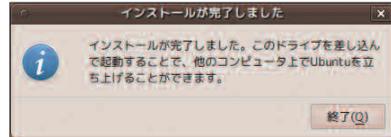
画面下部で、USBメモリから起動した際に加えた設定の変更や作成したファイルなどを保存するかどうかが選択できる。「シャットダウン時に、全ての変更を破棄する」を選択した場合は、Live CDでの起動と同じく、終了すると作成したファイルなどは全て消去される。「データ保存領域を確保し、行われた変更を保存する」場合は保存のための容量をスライダを左右に動かして決定しよう。

「USBスタートアップ ディスクの作成」を使う

UbuntuでLive USBを作成するには「システム」・「システム管理」・「USBスタートアップディスクの作成」をクリックしよう。付録CDから起動している場合はCDドライブ欄に作成元として表示される。それ以外の場合は、光学ドライブに付録CDを挿入したり、「その他」からダウンロードしてあるISOイメージを選択しよう。

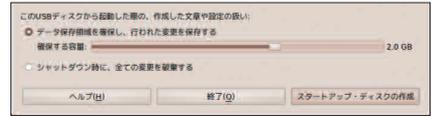
Ubuntuで作成する場合

STEP 03 LiveUSBができた!



これで作成は完了だ。Live USBで起動する前にBIOSでUSBメモリから起動できるようにしておく。

STEP 02 変更を保存するか選択



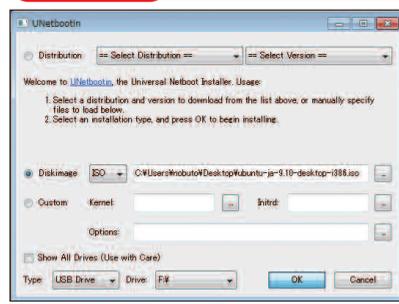
変更を保存するか、破棄するかを選択しよう。また、変更を保存する場合は、どれだけの容量を保存に割り当てるか決定しよう。

STEP 01 書き込み元を選択しよう



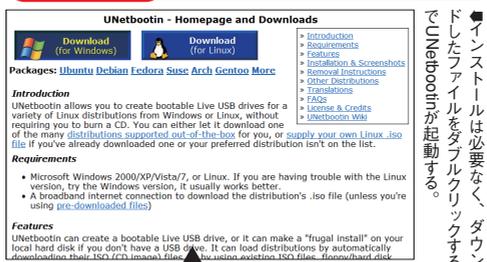
付属CDを光学ドライブに挿入するか、「その他」からダウンロードしたISOイメージを選択しよう。

STEP 02 ISOイメージを指定



「Diskimage」欄でISOイメージの場所を指定しよう。画面下部で書き込み先のUSBメモリを選択できる。

STEP 01 UNetbootinをダウンロード



<http://unetbootin.sourceforge.net/>

「UNetbootin」を使って作成しよう。Windowsから作成する場合は、まず「UNetbootin」というツールを左記URLからダウンロードしよう。このソフトではCDは使用できないので、あらかじめ日

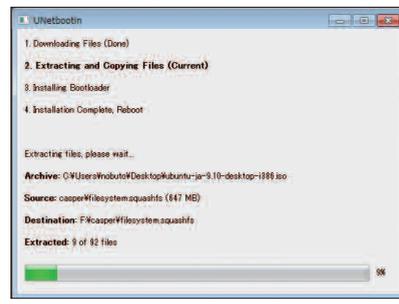
Windowsで作成する場合

STEP 04 インストーラでの注意



UNetbootinで作成したライブUSBで起動してインストールする場合、「日本語」を選択し直すこと。

STEP 03 イメージの書き込み



今回はあらかじめダウンロードしておいたISOイメージを使用するが、UNetbootinは様々なディストリビューションのISOイメージをダウンロードする機能も備えているので、このように詳細な画面が表示される。

本語RemixのISOイメージをダウンロードしておく必要がある。UNetbootinから作成したLive USBで起動してUbuntuのインストールを行う場合、インストールでの言語が英語に設定されているので、忘れずに「日本語」に選択し直そう。

UNRのダウンロード



<http://www.ubuntu.com/getubuntu/download-netbook>

■ネットブックへのインストールはライブUSBが便利。作成方法は25ページを参照。

Ubuntuには通常のデスクトップ版だけでなく「Netbook Remix (ネットブックリミックス)」と呼ばれるネットブック版も存在する。ネットブック版では、ネットブックの解像度があまり高くない画面での操作性が考えられている。また、ネットブックに搭載されることの多い内蔵カメラを活かすアプリケーションが初期状態でインストールされているなどの特徴がある。

2009 Netbook Remix



Ubuntu Netbook Remix



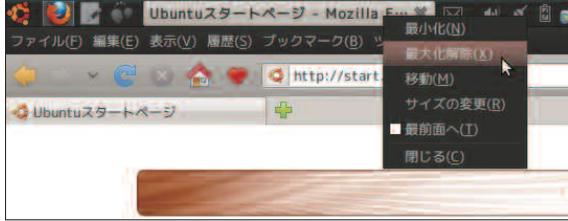
これがUbuntu Netbook Remixのデスクトップだ。Netbook Launcherと呼ばれるランチャーが表示されている。ネットブックの狭い画面でも操作しやすい。

「9.10のRemixはかなりオススメだ！」
UNRはEeePCなどのネットブックに最適化されている。Ubuntu 9.04までのUNRは使いやすい面でおすすしにくかったが、Ubuntu 9.10のUNRはかなりおすすすめだ。なんといってもデスクトップに表示されている「Netbook Launcher」がカッコいい。項目ごとにまとめられたメニュー構成の中に、大きめのアイコンが並べられている。これなら、タッチパネルを採用しているネットブックでも操作しやすいはずだ。さらに、アプリケーションを

起動中でも、画面左上のUbuntuアイコンをクリックすれば、すぐにNetbook Launcherの画面に戻ってこられる。

起動中でも、画面左上のUbuntuアイコンをクリックすれば、すぐにNetbook Launcherの画面に戻ってこられる。ネットブック・リミックスでは起動したアプリケーションは最大化したウィンドウで表示される。さらに画面上部のパネルが上部のみに集約され、タイトルバーもパネル内に表示されるため、通常のデスクトップ版に比べて画面を有効に使えるデザインになっている。インストールは、デスクトップに表示されている「Ubuntu Netbook Remix 9.10のインストール」をクリックする。インターネットに接続した状態で、インストールを実行すると日本語化されるが、再起動しても日本語で表示されない部分がある場合は、「System」から「Language Support」を選び、不足しているパッケージをインストールしよう。

STEP 02 ウィンドウの最大化を解除するには



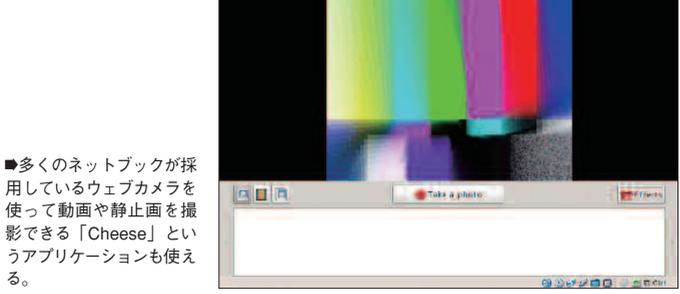
■画面を有効に活かすためにほとんどのアプリケーションは最大化された状態で起動する。一時的に最大化を解除したい場合は上部パネルのアプリケーション名を右クリックして「最大化解除」をクリックしよう。

STEP 01 アプリの表示ウィンドウが最大化される

■アプリケーションを起動するとこのように最大化された状態になる。デスクトップ版と比べて下部のパネルが省かれ、タイトルバーと上部パネルが一体になっているので、画面を広く使える。



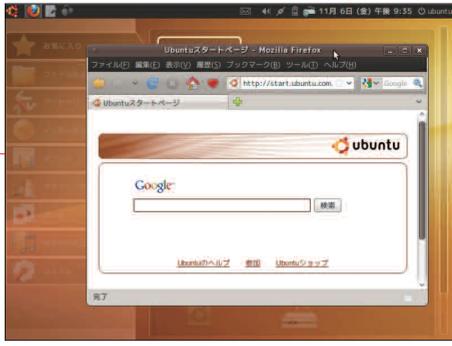
STEP 04 ウェブカメラを活かすアプリもある!



■多くのネットブックが採用しているウェブカメラを使って動画や静止画を撮影できる「Cheese」というアプリケーションも使える。

STEP 03 通常のウィンドウ表示もできる

■最大化が解除され、通常のウィンドウ表示にすることも可能。この状態にしておけば、2つのアプリケーションを同時に表示した状態で作業することもできる。



Ubuntu 9.10 インストール 完璧ガイド

「Kubuntu Netbook Remix」はデスクトップ環境にKDEを採用しているKubuntuのネットブック版。UbuntuのGNOMEとは一味違う、美しいデスクトップが特徴だ。パネルは上部のみで、デスクトップに表示されているランチャは項目ごとに整理されている。アプリを起動すると、上部のパネルは自動で隠れる。マウスポインタを画面上部に持つて行くとパネルが現れる。この仕組みによって、画面にはアプリケーション以外のものが表示されず、画面を無駄なく使える。

KDEだからといって、インストール作業が難しいわけではなく、通常のUbuntuと同じインストーラ「Ubiquity」で、とまどことなく導入できるだろう。また、

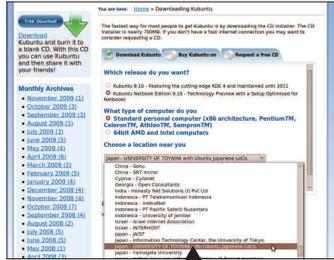
**プレビューではあるが
注目したいリミックス**

Kubuntu Netbook Remix



パネルは上部のみでアプリケーションを起動した際には自動で隠れる。デスクトップには項目ごとに整理されたランチャが表示されている。

ダウンロードはここから



<http://www.kubuntu.org/getkubuntu/download>

Kubuntuのダウンロードページで、「Choose a location」を「Asia-Japan」を選択してダウンロード。

ウェブブラウザ「Konqueror」の代わりに使いたれたFirefoxもインストールもできる。ただし、「Kubuntu Netbook Remix 9.10」はテクニカルプレビューという位置づけなので、多少うまく動かない部分もあるかもしれない。しかし、10.04では完全なものを提供すると宣言しているので、今後注目だ。

STEP 02

起動中の画面もおしゃれな雰囲気



■起動中の画面もKDEらしくカッコいい。マウスポインタの形も通常のUbuntuとは違うのに気づいただろうか？

STEP 01

Kubuntu Netbook Remixの起動画面



■KubuntuなのでUbuntuとはロゴマークもテーマカラーも違う。新鮮な気分だ。

STEP 04

インストール作業はUbuntuと同じ手順



■インストーラはUbuntuと同じUbiquity。なので、とまどことなくインストール作業ができるぞ。

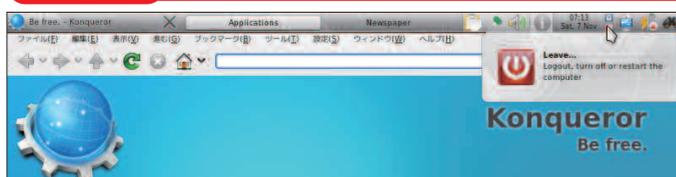
STEP 03

テクニカルプレビューなのだ！



■Kubuntu Netbook Remixのインストールを実行する際に表示される注意文。テクニカルプレビューという位置づけなので、うまく動かない部分もあるかもしれない。

STEP 06 自動的に隠れるパネルが使い勝手をアップ！



■マウスポインタを画面上部に持つて行くとパネルが現れる。シャットダウンするには、パネル右側にある電源マークをクリックしよう。

STEP 05

ブラウザがちょっとおもしろい仕様なのだ！



■インターネットブラウザを含む様々な機能を持つKonquerorを起動したところ。上部のパネルは自動で隠れてデスクトップを広く使える。

INSTALL
SET UP

意外とカンタン! Macにも Ubuntuを 入れてみよう!!

インテルMacなら 手順はほぼ同じ!

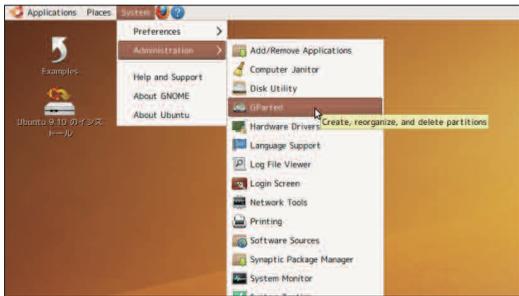
最近のインテルCPUを搭載したMacであれば、Windowsと同様にUbuntuをインストールできる。本誌付録のCDをMacに挿入し、キーボードの「C」キーを押しながら電源を投入しよう。CDからUbuntuのブートが始まるので、20ページの手順と同様にインストールを行う。UbuntuだけでMacを使用するならば、HDD全体を削除してインストールしてもかまわない。

CD起動は[C]キーを押しながら



Macに付録CDを挿入し、[C]キーを押す。あとは20ページの手順で進められる。

STEP 01 ライブCDでGpartedを起動しよう



CDからUbuntuを起動させたら、[System]-[Administration]-[GParted]でパーティション・エディタを起動する。これでMac OS Xのパーティションを縮小し、Ubuntuのための空き領域をつくる。

Mac OS Xと デュアルブートにする

起動時にMac OS XかUbuntuを選ぶ方法

現在のMacは「Option」キーを押しながら電源を入れることで「Startup Manager」と呼ばれるプログラムが起動し、ここから起動に使用するボリュームを選択できるようになってきている。この「Startup Manager」はLinuxを起動させることもできるので、利用すれば簡単にデュアルブート環境を構築できる。

STEP 02 Ubuntuのための空き領域をつくる



左はパーティションを縮小しているところ。ここでスライダーを動かして縮小後のサイズを決めよう。右が縮小後のドライブ。Mac用の領域が縮小されている。

STEP 03

空き領域に Ubuntu 9.10を インストール

上段右側の41.9GBの空き領域にUbuntuをインストールする。「連続する最大の空き領域を選択する」にチェックを入れると、下段の空き領域が「Ubuntu 9.10」として表示される。[進む]をクリックしてインストール作業を進めよう。



STEP 04

起動したいOSを 選択できるようになった

[Option]キーを押しながら電源オンすると表示される「Startup Manager」の画面。Ubuntuが入っている領域はWindowsと表記されているが、問題なく起動できる。



全体がMac OS Xのために使用されているはずだ。Ubuntuをインストールするには、既存のOS X用の領域（パーティション）を縮小して空き領域をUbuntuのために確保する必要がある。パーティションを編集するためには、付録のCDからUbuntuを起動して上部パネルから[System]-[Administration]-[GParted]を実行しよう。

「GParted（パーティション・エディタ）」では、OS Xが使用しているパーティションを右クリックして「Resize/Move」を選択すれば、パーティションのサイズと移動を行えるようになる。

Ubuntu用のパーティションとしたいサイズを確保できるように、OS Xのパーティションを縮小（リサイズ）しよう。

なおパーティションの縮小に伴って、まれにはあるがデータが破損してしまうことも考えられる。くれぐれもOS Xで作成したデータなどはバックアップをとっておこう。

もしもOS Xのインストールからやりなおしてもよいならば、OS Xをインストールする段階でディスクユーティリティを使い、あらかじめUbuntu用のパーティションも用意しておくのが確実だ。

領域が確保できたら、あとは20ページの手順と同様にインストールを行えばよい。パーティションの設定では「連続する最大の空き領域を使用する」を選択しよう。これで事前に確保しておいた空き領域にUbuntuをインストールできる。

インストールが完了したら、「Option」キーを押しながらMacを再起動しよう。「Startup Manager」からUbuntuをインストールしたボリュームが認識されているはずだ。残念ながら「Windows」とOS名が間違っていて表示されてしまっているが、このボリュームを選択すればUbuntuを起動できる。

Ubuntu 9.10 インストール 完璧ガイド

STEP 01 rEFItをインストール



■ダウンロードしたファイルを開いたら「rEFIt.tpkg」というファイルを実行。一般的なMac OS X用アプリケーションと同様にインストールできる。



「Startup Manager」より、さらに高性能なブートローダが「rEFIt」だ。Mac/Linux/Windowsのトリプルブートのような環境も構築できる。rEFItのインストールは、Mac OS X 上で行う必要がある。インストールが終わったら、Macを再起動させてStartup Managerを呼び出すと、いまrEFItをインストールしたハードディスクのラベルが「r

高性能ブートローダ「rEFIt」を使う
トリプルブートにも挑戦可能な便利ツール

STEP 02

rEFItのドライブを選択して起動する

■Macを再起動させてStartup Managerを呼び出すと、rEFItをインストールしたHDDのラベルが「rEFIt」になっている。以後ここから起動するとrEFItのメニューが表示される。



なおrEFItはインストールされているOSを自動的に検索して列挙してくれるが、残念ながらUbuntu 9.10は「Legacy OS」とされてしまうことがある。起動

EFIt」になっているのが確認できるはずだ。以後このポリシーから起動を行うとrEFItのメニューが表示され、Macに接続された各種ストレージから起動するOSを選べるようになる。

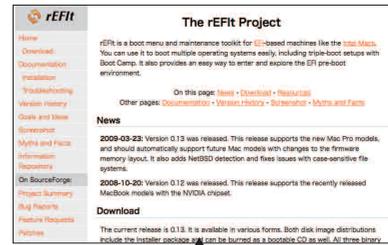
STEP 03

rEFItのメニューからOSを選択して起動

■rEFItのメニュー。ここではMac OS X/Windows 7/Ubuntuのトリプルブートになっている。右端のUbuntu 9.10は「Legacy OS」として認識されてしまっているが起動に問題はない。



rEFItのダウンロード



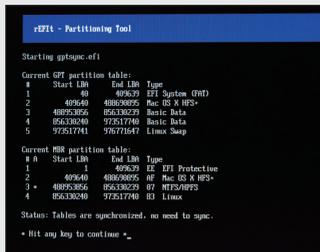
<http://refit.sourceforge.net/>

は正常にできるため、それほど問題ではない。今後rEFItがバージョンアップすれば、正しくペーシングのアイコンが表示されるようになるはずだ。

パーティションテーブルの同期を取ってやる

! rEFItのメニューからUbuntuが起動できない場合

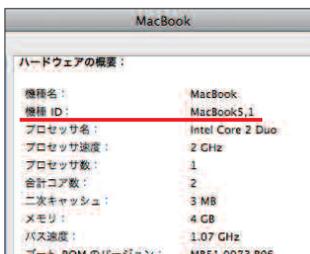
gptsyncを使って解決



■Macのパーティションテーブル「GPT」とMBRの同期を取ってくれるツールだ。

ツールを実行すると現在のGPTとMBRのパーティションテーブルがそれぞれ表示され、同期が必要であれば「May I update the MBR as printed above?」と問いかけるので「y」を入力して「Enter」キーを押そう。これでパーティションテーブルの同期が取られ、UbuntuをrEFItから起動することができるようになる。

機種IDを調べる



■情報を得るための重要な手がかりになる機種IDは必ず確認しておこう。

インストール前にチェック

Feature	Support status
Sensors (temps & fans)	⚠
Suspend & Hibernate	✓
Reboot	✓
Desktop Effects (Compiz)	⚠
HFS+ (only read)	✓
CD/DVD Writing	⚠
Bluetooth	✓

<https://wiki.ubuntu.com/MacEtlSupportTeam/CommunityHelpPages>

■機種IDごとに動作情報や設定方法がまとめられていて便利。

Ubuntuのインストールが完了しても、すべての機能が自動的に有効になるとは限らない。手でドライバのインストールを行う必要があるデバイスや、中には残念ながら完全には動作しないデバイスもある。そのためには自分が使っているMacの機種IDをシステムプロファイラで把握し、Ubuntuでの対応状況を事前に調べておく必要がある。Macの画面左上のアップルマークをクリックし、「このMacについて」・「詳しい情報」を開いて機種IDを確認、情報を集めておこう。

Ubuntuを入れた後の設定は？
Macのモデルにより設定が異なるので注意

INSTALL
SET UP

4GB以上のメモリを 使えるようにするには？

PAEカーネルについて ちょっとお勉強しよう

通常32bitのOSでは、物理メモリは4GBまでしか使用することができない。厳密には、3GBちょっとだ。最近ではメモリの値も充分に安くなり、4GB以上搭載することも当たり前になった。64bit OSには当然このような制限はないので、AMD64のインストーラを用いてインストールするのも一つの手段。しかし、ほとんどのパッケージは問題なく動作するものの、プロプライエタリなソフトウェアやプリンタなどのドライバは32bit用しか用意されておらず、使用するのが困難という現実が立ち上がる。

そこで登場するのがこのPAEだ。PAEは「Physical Address Extension」の略で、「物理アドレス拡張」と略される。端的にいえば、32bit CPUでも4GB以上のメモリが使用できるようにする機能が、「Pentium Pro」以降、AMDは「Athlon」以降のCPUに実装されている。この機能を使うためにはソフトウェア（具体的にはカーネル）の対応が必要で、Linuxでもカーネルバージョン「2.6.33」から使用できる。Ubuntu 9.04までは、サーバ用のカーネルでだけこのPAEが有効だった。よって、デスクトップ版をインストールしたあとにサーバ用のカーネルをインストールすれば、一応PAEを使用することはできた。しかし、設定（コンフィグ）がサーバ用とデスクトップ用で異なるため、特にハードウェアのドライバで困ることがあった。Ubuntu 9.10からはデスクトップ用にPAEを有効にしたカーネルが用意され、これを用いてインストールするだけとなった。

以降、AMDは「Athlon」以降のCPUに実装されている。この機能を使うためにはソフトウェア（具体的にはカーネル）の対応が必要で、Linuxでもカーネルバージョン「2.6.33」から使用できる。Ubuntu 9.04までは、サーバ用のカーネルでだけこのPAEが有効だった。よって、デスクトップ版をインストールしたあとにサーバ用のカーネルをインストールすれば、一応PAEを使用することはできた。しかし、設定（コンフィグ）がサーバ用とデスクトップ用で異なるため、特にハードウェアのドライバで困ることがあった。Ubuntu 9.10からはデスクトップ用にPAEを有効にしたカーネルが用意され、これを用いてインストールするだけとなった。

●システムモニタで確認すると4GBのメモリ中「3.2GB」しか認識されていないことがわかる。

通常のUbuntu Desktop (32bit)



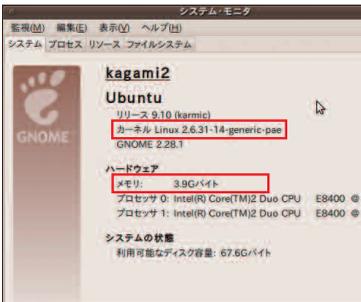
メモリを大量に使うアプリ



●VirtualBoxのような仮想マシンを複数動かすときは大量のメモリが要求される。

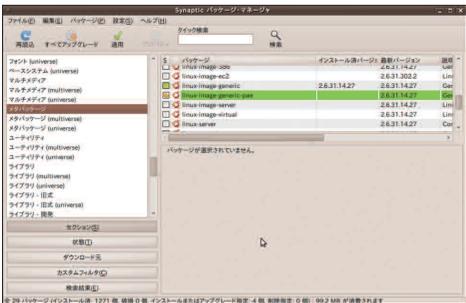
使用できるが、Windows XPやVistaや7の32bit版では、有効になっていない。厳密にいうと「NX Bit」というセキュリティ強化機能を使うためにPAEは有効になっていないが、4GB以上のメモリが使用できないようになってきている。64bit版のWindows 7をプリインストールして販売しているPCが増えているのは、こういった事情があるからだろう。

PAEカーネルで起動した場合



●カーネルが「Linux 2.6.31-14-generic-pae」と、ほぼ4GBを認識するようになった。

PAEカーネルのインストール



●Synapticパッケージ・マネージャからインストール。「linux-image-generic-pae」は[メタパッケージ]、「linux-headers-generic-pae」は[開発]セクションにある。

PAEカーネルを インストールする

インストールして
再起動するだけ！

PAEを有効にしたカーネルをインストールした場合は、「linux-image-generic-pae」というパッケージをインストールし、再起動すればいい。自動的に標準のカーネルよりも優先的にブートするようになる。同時にカーネルヘッダが「linux-headers-generic-pae」というパッケージ名で提供されているので、これも一緒にインストールするといいたいだろう。どちらもSynapticパッケージ・マネージャから検索し、インストールできる。linux-image-

PAEカーネルを
導入する時に
注意しておくこと

generic-paeはセクションの「メタパッケージ」に「linux-headers-generic-pae」[開発]にある。カーネルとともにカーネルヘッダがインストールされていないと、さまざまな場面で困ることになる。たとえば、デスクトップ効果を有効にするためのプロプライエタリなグラフィックドライバがインストールできない。正確には、インストーラはできてもカーネルモジュールが作成されないため、使用できないようにならない。そればかりでなく、ドライバ関連と同様に「VirtualBox」や「VMware」でもモジュールの作成が必要となるので、多くの場面で困ることになる。先は「インストールするといいたいだろう」という穏当な表現を用いたが、事実上は必須で、PAEカーネルと同時にインストールすることを強く推奨する。

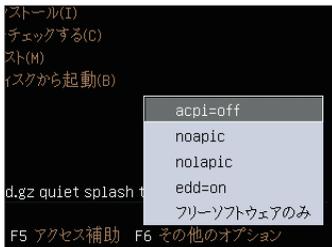
PAEそのものの注意点としては、原理上速度の低下が免れないとはいえず、体感できるほどの差はないはずなので、使ってみて気にならないければ問題ないだろう。また、ひとつのアプリケーション（プロセス）で使えるメモリは4GBまで、これが4GB以上に拡張されるわけではない。Pentium Mのほとんどのモデルなど、PAEが実装されていないCPUもある。インストールしてみても動かさなかったり満足できなかったり、インストールしたパッケージを削除するといいたい。

ここで[F6]キー



▲この画面は見られるもののインストールを正常に終わられないときに試そう。

起動オプション



▲もっともよく使われる4つのオプション（英字のもの）が選択できる。

CD起動で先に進めない場合は？

Ubuntuを古いPCに入れようとしている場合や、特殊なノートPCを使っている場合、CDからうまくブートしてくれないことがある。起動する途中で黒画面に白い文字が表示されるモード（「Busy box」という）になってしまったり、起動中にフリーズしたり画面表示が崩れたり……といった感じだ。

そんな場合は、次のオプション指定を試してみよう。基本的なオ

INSTALL SET UP

古いPCや特殊なPCに入れる場合の対処法を知ろう

! こうすると うまくいくかも……

- BIOSで不要なデバイスをオフにする
- BIOSを最新のものにアップデートしてみる
- 外付の光学ドライブから起動している場合はほかのインストール手段に変えてみる
- あきらめてAlternateCDを使ってインストール付きで、だ。

プションであれば設定は簡単で、付録のCD（Desktop CD）から起動するときに「F6」キーを押して「その他のオプション」を表示させる。下に挙げた4つの中から必要な設定オプションを選んで「スペース」キーか「Enter」キーを押すだけだ。あとは普通に起動するかどうかを確認してみよう。それでもどうしてもダメ、なんて場合は、「USBインストールディスクからブートしているならCDに、CDからならUSBに」という具合に、他のインストール方法でも試してみよう。もちろんオプション付きで、だ。

基本の起動オプションのことを知ろう！

2 noapic

バグの影響で最新ハードウェアが動かない場合

これはひとつ前に出てきた「no acpi」と間違えやすいので注意しよう。noapicは「no Advanced PIC (APIC)」の略だ（厳密にはPICはProgrammable Interrupt Controllerの略）。こちらは電源管理ではなく、システムのハードウェアをどのように制御するのか、という設定だ。新しいハードウェアではたいていAPICを有効にしたままでも問題がないが、まれにバグの影響でAPICが有効だとうまく動かないことがある。これはそんなハードウェアで使うオプションだ。

ただし、ひとつ前のnoacpiを利用すると、自動的にAPICもオフになるので、これは不要だ。

1 acpi=off

ACPIに対応していない古いPCの場合

ACPIは「Advanced Configuration and Power Interface」の略で、「システムの設定と電源管理」を司るものだ。ACPIがきちんと動作するにはBIOSの対応が必要なのだが、まれに「Windowsでないと動作しない」だとか、「ハードウェアが古いので、まだACPIに対応する前のもの」といった理由で、ACPIが有効だと動かないシステムがある。こうした場合にこのオプションを使うのだ。

特に、起動時に「ACPIがなんちゃら」といった英文のメッセージが画面に出てきていた場合、このオプションを使うとうまくいくことが多いはずなので覚えておくとオトクだ。

4 edd=on

古いPCに最近のHDDを取り付けた場合

古いハードウェアでインストールしようとする、HDDの容量が本来の容量よりも減ってしまい、なぜか32GB前後に見えてしまうことがある。そんな場合に利用することがあるのがこのオプションだ。

これを利用すると、BIOSの「Enhanced Disk Drive」機能を強制的に利用し、古いBIOSを搭載したシステムでも、いわゆる「32GBの壁」の影響を受けずにHDDを扱えるようになる。

古いシステムに最近のHDDを搭載した場合に必須のオプションだが、最近のハードウェアではあまり出番がないオプションでもある。

3 nolapic

一部のノートPCで手を尽くしたが動かないので祈るだけの場合

このオプションはnoapicの仲間、no Local APICの略だ。APICのごく一部、具体的にはCPU内蔵の部分を無効にするオプションだ。これも有効にしているとうまく動かないことがあるので、無効にすることでうまく動いてくれることを祈る、という感じだ。これは古いハードウェアではほとんど関係がなく、一部のノートPCで使うことが多い。

このオプションが効く場合は、「起動時にになにか、カーネルがクラッシュしたと言っているような気がする」場合だ。英語のメッセージをよく読んでみて、そんな気がした場合は試してみよう。

ブートパラメータ

```
起動オプション =casper initrd=/casper/initrd.gz quiet splash tz=Asia/Tokyo utc=no --
F1 ヘルプ F2 言語 F3 キーマップ F4 モード F5 アクセス補助 F6 その他のオプション
```

■下で紹介しているようなオプションを「--」のあとに、スペース区切りで付け加えてみよう。「--」の直後にもスペースが必要になるので、「-- xforcevesa all_generic_ide」みたいな感じだ。

ブートパラメータを自分で変更してみる
前のページの手段でダメだった場合は、「F6」キーを押してメニューを表示した後で、「ESC」キーでメニューを閉じて、パラメータを自分で設定しよう。メニューが消えたら起動オプションを編集できるので、「↑」に続けてコマンドを入力するのだ。

INSTALL
SET UP

それでもやっぱりインストールが出来ない場合の対処法を知る

基本の起動オプションはコレだ!!

2 irqpoll

古めのノートPCに入れようとしてトラブルになっている場合

うまく動作しないハードウェアを、「きちんと動作するように」カーネルの動作を変更する。技術的には、ソフトウェアでIRQ割り込みを代わり

に行うモードだ。遅くなるのが弱点だが、動かないよりはマシだろう。古めのノートPCにオススメのパラメータのひとつ。

1 cdrom-detect または all_generic_ide

CD-ROMドライブが原因でうまく動かない場合

特殊な形で接続された内蔵CDの検出を強化するモードだ。起動中にCDが止まる場合や、「Busybox」画面に落ちてしまう場合に使う。「cdrom-detect」はUSB接続のCD-ROMドライブ「all_generic_ide」は内蔵のCD-ROMドライブ用だ。

4 nomodeset

特定の機種で起こる問題を解決したい場合

「KMS」を無効にして、9.04までと同じ方法で起動する。Pentium M世代のオンボードビデオ(855 GM系)や、ごく一部のネットブック(MSI Windシリーズの一部)などで使うと幸せになれる。詳しくはリリースノートの該当部分を読んでみよう!

3 xforcevesa

画面の表示がひどい場合

うまく動作しないグラフィックカードを、「汎用ドライバ」で動かしてみる。ビデオドライバのバグに遭遇する場合や、うまく解像度が合わない場合に使えるオプションだ。とくにVIAやSISのオンボードビデオで画面が壊れてしまう場合、これを使うのがほぼ必須なのだ。



ココからダウンロード

Alternative download optionsやText-based installerという表示をたどると、Alternate CDが見つかるはずだ。

<http://www.ubuntu.com/getubuntu/downloadmirrors#alternate>

もしどうしても上手くインストールできない場合、特にメモリが少ない環境でUbuntuをインストールしたい場合「Alternate CD」を使う手がある。これはLive環境で動作するのではなく、インストール専用の、テキストベースの昔ながらのインストーラを起動させるモードだ。Live環境に比べて必要なハードウェアスペックも低いので、もしかすると上手く行くかもしれない。うまくインストールできたら、33ページを読んで日本語Remixと同等の環境にしておこう。

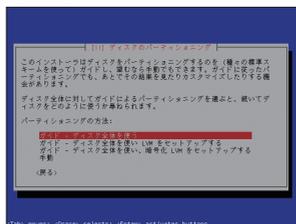
見た目は怖い(?)が手順は簡単な方法
Alt+Ctrl+XでAlt+Ctrl+XでAlt+Ctrl+X

STEP 04 インストール完了!



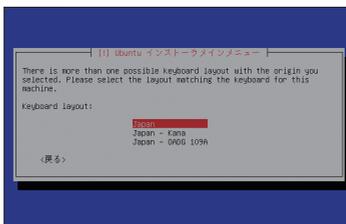
■完了してしまえば起動後はDesktop CDと全く同じ環境なのだ。

STEP 03 インストール中の画面



■[Tab] キーで項目を選択、[Enter]で決定、というお約束で作業を進めていこう。

STEP 02 キーボードの選択



■キーボードレイアウトの選択。「Japan」を選べばOK。

STEP 01 CDから起動



■最初に言語を選んでインストール開始。日本語対応なので安心。

日本語環境を後から
整える必要があるUbuntu

▶ INSTALL
SET UP

インストール後に 日本語環境を 導入するには

日本語Remix以外を
使った場合はどうする??

本誌付録の日本語Remix CDには、日本語表示や入力が快適に行えるような設定があらかじめ施されている。ここではwww.ubuntu.comにて配布されているいわゆる「本家版」からインストールを行った環境に、後から日本語Remixと同等の環境を整える方法を紹介しよう。

- Ubuntu Desktop AMD64
 - Alternate CD
 - Ubuntu Netbook Remix
 - Kubuntuなどの派生版
- ほか

インストール後のダイアログ



■言語サポートのインストールを促すダイアログが表示される。

この問題を解決するには、日本語に対応した言語サポートをインストールする必要がある。Ubuntuにログインすると、自動的に言語サポートのインストールを促すダイアログが表示される。UbuntuはCD1枚で提供されるという都合上、あらゆる言語のサポートをCD内に納めることはできない。そのためインストール時にインターネットから、利用言語に必要なパッケージをダウンロードしてインストールするという手段をとっている。しかしインストール時にネットワークに接続できないような環境では、インストール時の表示に「日本語」を選んで、GNOMEのメニューが英語表記のままになっている。日本語Remix CDはデスクトップ版のi386(32bit)のみで提供されているので、これ以外のUbuntu、たとえば「AMD64(64bit)版」や「Netbook Remix」などをインストールした場合は、GNOMEメニューは英語のまま。

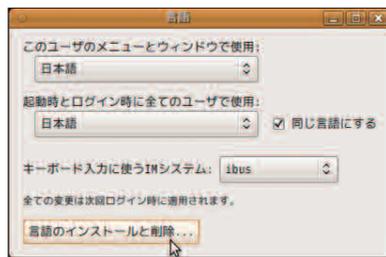
GNOMEメニューの表示を日本語にする
まずは言語サポートをインストール

メニューが日本語に



■言語サポートのインストール後は再起動。メニューが日本語化され、日本語での入力も可能になる。

言語サポート



■日本語以外の言語も追加できる。ユーザごとに使用する言語を変更することも可能だ。

すダイアログが表示されるので、ネットワークに接続していることを確認したら「Run this action now」をクリックしてインストールを行う。またこのダイアログは「System」・「Administration」・「Language Support」を実行して呼び出すこともできる（日本語メニューでは「システム」・「システム管理」・「言語サポート」）。もちろん、日本語以外の言語を追加することもできる。

言語サポートのインストールが完了したら、Ubuntuを再起動しよう。メニュー表記が正しく日本語になっているはずだ。

Japanese Teamリポジトリを追加する

```
wget -q https://www.ubuntulinux.jp/ubuntu-ja-archive-keyring.gpg -O- | sudo apt-key add -

wget -q https://www.ubuntulinux.jp/ubuntu-jp-ppa-keyring.gpg -O- | sudo apt-key add -

sudo wget https://www.ubuntulinux.jp/sources.list.d/karmic.list -O /etc/apt/sources.list.d/ubuntu-ja.list

sudo apt-get update

sudo apt-get upgrade
```

■端末を開き、上記のコマンドを入力する。詳細は、<https://www.ubuntulinux.jp/products/JA-Localized>を参照。コマンドを入力するのが面倒な場合はこのページからコマンドをコピー&ペーストするとい。

また、日本語Remix CDには日本語環境セットアップヘルパをはじめ、あらかじめいくつかのパッケージがインストールされている。これらのパッケージをインストールし、日本語Remix CDと同等の状態にするには、Synapticのパッケージ・マネージャを使って「ubuntu-desktop-ja」を検索、パッケージを追加すればいい。

なお詳細は<https://www.ubuntulinux.jp/products/JA-Localized>に書かれているので、参考にしてほしい。

リポジトリやヘルパを追加しよう
日本語Remix CDと同等の環境にできる！

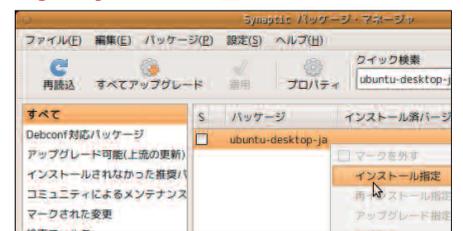
Japanese Teamは、Ubuntuを日本人にとってより使いやすくするため、いくつかのパッケージを配布している。これらをインストールするには、「Japanese Team」のリポジトリを追加する必要がある。「アプリケーション」・「アクセサリ」・「端末」を開き、左のコマンドを実行しよう。

日本語環境セットアップ・ヘルパ



■日本語環境で人気のアプリやパッケージをまとめてインストールできる便利なツールだ。

Synapticから追加する



■リポジトリを追加したら「ubuntu-desktop-ja」を検索、インストール指定を選び「適用」をクリック。適用後はログアウト、再ログインする。

INSTALL
SET UP

アップグレード前に Ubuntuの バックアップを しておこう!!

アップグレード前には バックアップ!

Ubuntuの魅力のひとつは、「アップデート・マネージャ」を使うことで、9・04から9・10へのアップグレードなど、バージョンアップがカンタンに行えることだ。ただし、実際は「OSの入れ替え」と変わらない行為なので、バージョンアップの際はきちんと準備してから進めよう!

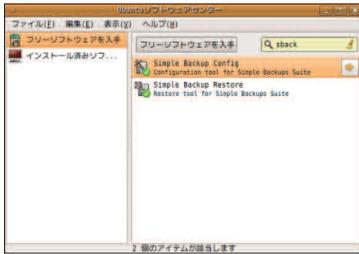
また、新しいバージョンが出てきても、すぐにはアップグレードをしない方がいい。Ubuntuの新しいバージョンリリース直後はそれなりにバグがあるため、トラブルに遭遇したくないマシンで、リリースされた当日にアップグレードするなどというのはあまりオススメではない。バグへの対処が落ち着き始める、リリースから1ヵ月後ぐらい(つまり、9・10なら本誌の発売日前後)が「食べごろ」だ。今9・04を使っているなら、そろそろアップグレードがオススメ!

まずはバックアップの 準備をしよう!

まず、万が一アップグレードが失敗してしまった場合に備えて、重要なデータのバックアップを取ろう。アップグレードは、作業中の電源だけでなく、ソフトウェアのバグでうまく動かない、作業中にPC切替機を使ってしまった、といったことで失敗する可能性がある。うまくPCが起動しなくなってしまう場合、LiveCDでデータを救い出す、なんていう面倒な作業が必要になってしまう。そんな場合も、バックアップがあれば、サクッとデータを救い出せるはずだ。失敗した場合の命綱なので。

とは言い、「単にバックアップを取ろう」と言われても、どうすればいいのか分からないだろう。ここではUbuntuでよく使われる「Simple Backup (sbackup)」というソフトを使ったバックアップと、「dd」コマンドを使ったバックアップイメージを取得する方法を紹介していこう。

sbackupをインストール



■[Ubuntuソフトウェア・センター]で「sbackup」を検索し、ソフトを入手しよう。

sbackupのおすすめバックアップ設定

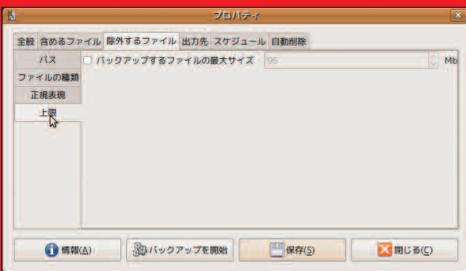


[除外するファイル]-[ファイルの種類]



■デフォルトではMP3やAVIなどの音楽・動画ファイルはバックアップされない。これでは困ってしまうので、それぞれを選択して「削除」しておこう。操作が少々面倒なので、選択して[Alt] + [R]キー、という操作を繰り返すのがラクだ。

[除外するファイル]-[上限]



■「バックアップするファイルの最大サイズ」という設定があるので、これもハズしておこう。チェックボックス(□)をクリックして、チェックを外すだけだ。

バックアップと リストアの手順は?

除外するファイルの種類と上限に気をつけるだけ

「Simple Backup (sbackup)」は標準ではインストールされていないので、「sbackup」というパッケージをインストールしよう。インストールすると、「システム」・「システム管理」・「バックアップの設定」からバックアップのための設定画面・実行画面を呼び出せるようになる。そのままの設定では、メディアファイルや100MBを超えるファイルはバックアップされない

ので、設定を変更する必要がある。オススメの設定は左のとおりだ。これらの設定さえ済ませてしま

えば、「バックアップを開始」をクリックするだけでバックアップが開始される。バックアップが完了したら、「/var/backup/」以下にバックアップを取った日付で始まるディレクトリができてはいるはずだ(2009-11-03_16:51:58.201058.hostのような日付と時刻が入った名前のディレクトリだ)。このディレクトリ丸ごとを保存しておくことで、他の環境からでも元の環境を復元することができる。

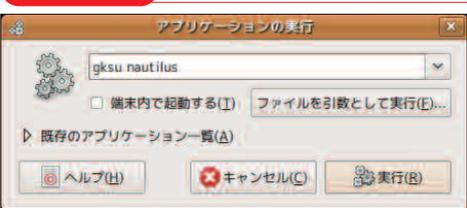
USB HDDなどにこの領域をコピーしておけば安心できるが、このバックアップファイルにアクセスするには管理者権限が必要になる。具体的な手順は下記のとおりだ。一般ユーザーのままファイルを開こうとしても、うまくデータにアクセスできないぞ。

STEP 01 バックアップ進行中



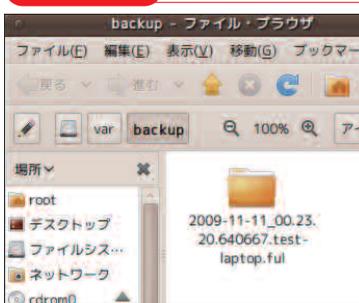
■バックアップはバックグラウンドで実行されるので、特に進捗状況などの表示はされない。

STEP 02 保存フォルダを開くには



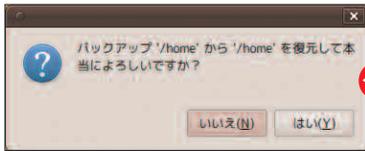
■バックアップの保存先を開くには管理者権限が必要。上のコマンドでファイルブラウザを起動しよう。

STEP 03 バックアップフォルダ



■このファイルをリストアすれば元の環境に戻せる。外付ディスクなどにコピー

ファイルの復元



復元したいファイルを選んで、このダイアログで「はい」を選ぶだけ。基本的にはすべて復元しよう。

バックアップの復元



きちんとバックアップが取れていればファイル名が表示されるので、バックアップできたかの確認にも使える。

バックアップしたファイルをレストアする
バックアップだけじゃ意味がない！

環境を元に戻す（レストアする場合、「システム」・「システム管理」・「バックアップの復元」を起動しよう。バックアップしたファイルの置き場所を選んで（他のディスクへのコピーなどをしていなければ、「デフォルト」のまま）、「利用可能なバックアップ」ボックスで戻したいバックアップを選択、「復元」ボタンを押すだけ！ あとはしばらく待つていれば、もと使っていた環境が元通りになっているのだ。

ddのコマンド

バックアップするとき

```
sudo dd of=/media/disk/backup.dd.img if=/dev/sda
```

レストアするとき

```
sudo dd of=/dev/sda if=/media/disk/backup.dd.img
```

※バックアップ先、レストア先を間違えるとディスクの中身が消去されてしまう。実行は本文を読んで慎重に行おう。

ddコマンドを使ってバックアップする場合
HDD全体のイメージをバックアップする方法

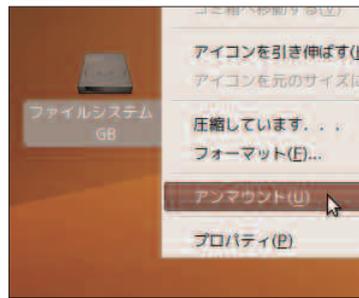
s b a c k u p よりも強力な方法が、「dd」を使ったバックアップだ。ddを使ってHDD全体のイメージを取得してしまうので、操作さえ間違えなければ確実に元通りに戻せる。
弱点は、コマンドを使つての操作になるので、ちよつと操作が難しいことと、「HDDと同じサイズのバックアップ先」が必要になることだ。普通はUSB外付けのHDDにバックアップすることになるだろう。ただし、HDDの仕様上、「500GB」といってもメモリーカードごとに微妙に容量が違つたりするので、「HDDを確実にバックアップするには、それよりも大きなバックアップ先HDDが必要」と覚えておこう。たとえば、内蔵HDDが80GBのディスクなら、120GB以上のものを準備すればいい。

STEP 04 ddを実行してバックアップを取る

端末で「dmesg」を実行して、最後の数行をチェックした上で「sudo dd of=/media/disk/backup.dd.img if=/dev/sda」と入力しよう。もし外付けHDDが/media/disk-1であれば「/media/disk/backup.dd.img」の部分は「/media/disk-1/backup.dd.img」になるし、内蔵HDDが「sdb」なら「if=/dev/sdb」に置き

換わる。この操作はHDD全体をコピーするので、かなり時間がかかる。終了したらもういちど「dmesg」を実行しよう。ddの実行前と同じ内容ならOK、なにかディスクに関連しそうなエラーが出ていたら、ddが失敗している可能性があるのもういちどバックアップを取り直そう。

STEP 01 Live CDでUbuntuを起動する



ddでのバックアップは、付録のCDなどを使ってシステムを起動するところから始まる。USB Startup Diskが準備できているなら、そちらでもOKだ。Live環境のシステムを起動して、もしも既存のパーティションがデスクトップ上に表示されているようなら、全て右クリックして「アンマウント」。準備ができたなら、バックアップ先になるHDDを接続する。

STEP 02 USB HDDを接続する



USB HDDのマウントされている場所を知るために、ファイル・ブラウザの左上にある「ノート」アイコンをクリックして表示を切り替え、「/media/disk」へマウントされていることを確認しよう。ここでマウントされているパスが重要だ。環境によっては「/media/disk-1」や左図のようにマウントされることもあるので、その場合は以下の手順を読み替えてほしい。

STEP 05 バックアップファイルからレストア

バックアップを取った後、トラブルが起きてレストアが必要になったときも、Live環境を立ち上げた上で、USB HDDを接続しよう。端末を開いたら「dmesg」を実行して、最後の数行をチェックしてから「sudo dd of=/dev/sda if=/media/disk/backup.dd.img」だ。

ofとifの中身がバックアップ時と逆になっているのがポイントになるぞ。注意すべきなのは、「ddを取った時点」のHDDの内容がそのまま書き戻される、ということだ。レストア対象になったHDDの中身はすべて消えてしまうので、くれぐれも誤って実行しないように注意しよう。

ボタンを押す前に



アップグレードボタンを押す前に「アップデートをインストール」だ。

アップグレードを開始する前に、「アップグレード前のバージョン」の最新にしておこう。左みたいな状態では、まず「アップデートをインストール」。話はアップデートが適用されてから、だ。

アップグレード作業に入る前に！

STEP 03 「端末」を開く



「アプリケーション」→「アクセサリ」→「端末」を開いて、「ls -al /dev/disk/by-id/」と入力しよう。HDDの型番の一覧とその名前が表示されるはずだ。普通のPCでは内蔵HDDは「sda」という名前になっていて、そこに作ったパーティションが「sda1」「sda2」……などと続いている。ここで重要なのは、「sda」の部分だ。自信がない場合は、パーティション・エディタを開いてチェックしよう。

リリース前バージョンからのアップグレード

Ubuntuではアルファやベータ、リリース候補などの開発版からリリース版へのアップグレードが可能だ。手順は「通常のアップデート」と同じで、アップデートを適用するだけでそのままリリース版になる。

OSをアップグレード！
操作はカンタン！

アップグレードを開始する前に「アップデートをインストール」だ。アップデータが適用されてから作業しよう。「アップグレードで問題が起こるハードウェア」「特定のハードウェアで必要な追加設定」が記載されているリリースノートも必ず読んでおこう！。読まずにアップグレードするとハマるので注意だ！

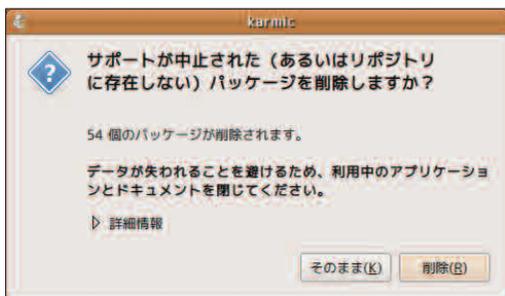


STEP 05 「××を設定しています」表示が出る場合



それまでに特殊な設定をしていなければ、基本的にそのまま「進む」でOK。何度か表示される場合もあるが、初期状態で「もっとも適切だと思われるもの」が設定されているので、そのまま進めよう。

STEP 06 「サポートが中止されたパッケージ」



アップグレードの途中で「いくつかのアプリケーションのサポートは終了しました」という表示が出され、最終段階では「サポートが中止された (あるいはリポジトリに存在しない) パッケージを削除しますか?」という確認が行われる。これは、アップグレードの前後でリポジトリから存在しなくなるパッケージを、念のため削除するかどうか? という設定だ。「詳細情報」を見て、確実に必要ないソフトばかりであることを確認できれば「削除」を、自信がない場合は「そのまま」を選択するようにしよう。



STEP 07

再起動してリポジトリを登録



アップグレードが完了したら[再起動]ボタンをクリックして再起動しよう。アップグレードを行うタイミングで「追加されたリポジトリ」が無効になるので、日本語Remixの最新バージョンに対応したリポジトリを追加する。詳しくは32ページを見よう。

STEP 01

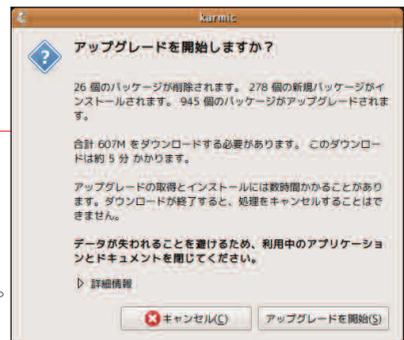
アップグレードをいよいよスタート



アップグレードを開始する前に、アップデートマネージャで「アップグレード前のバージョンの最新」にして、アップデートの欄が空白になったら、その上にある「アップグレード」ボタンを押そう。

STEP 02

アップグレード開始?



システムの準備ができると、「アップグレードを開始しますか?」というウィンドウが表示される。バックアップは取ったか、リリースノートに目を通したかを確認しておこう。確認したら「アップグレードを開始」ボタンをクリックだ。

STEP 03

アップグレード処理に入る



[アップグレードを開始] ボタンをクリックした直後に始まるアップデートのダウンロードの段階からならアップグレードをキャンセルして引き返せる。通常はこのままにしておこう。

STEP 04 設定ファイルはそのままに



ユーザーがカスタマイズしたものよりも新しいタイプの設定ファイルが含まれている場合に表示される。基本的には「そのまま」、カスタマイズした設定を後で戻せるなら「置き換え」でもOKだ。